

令和7年度分

## 三朝町教育委員会の事務に関する評価報告書



三朝町教育委員会



# 目 次

1	はじめに	1
2	目的	1
3	点検・評価の内容	1
4	議会・町民への報告	1
5	評価の対象及び手法	
	(1) 評価対象事業	1
	(2) 評価の手法	2
	(3) 評価の基準（4段階評価）	2
6	評価結果の概要	
	(1) 内部評価	2
	(2) 教育委員会評価	2
	(3) 教育行政評価委員会評価（外部評価）	2
	(4) 評価結果の総括	3
7	令和7年度施策と成果指標	4
8	評価結果と各委員の意見等	
	(0) 令和7年度三朝町教育事業計画における重点項目	8
	(1) 未来を拓く「生きる力」を育てる「みささ教育」の実現	14
	(2) ふるさとを学び・愛する「みささ人（びと）」の育成	18
	(3) 安心・安全な教育環境整備と地域と共に歩む学校づくり	20
	(4) 生涯スポーツ活動の普及と健康な心と体づくりの推進	22
	(5) 生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現	24
	(6) 文化、伝統、地域資源（文化財）の継承と芸術の振興	30
9	教育委員の活動状況報告	
	(1) 教育長・教育委員の在任状況	32
	(2) 委員の異動	32
	(3) 教育委員会会議の開催状況	32
	(4) 小中学校及び園への計画訪問	35
	(5) その他の主な活動	35

## 1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の一部改正により、平成 20 年 4 月から教育委員会の責任体制の明確化を図るため、各教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を公表することとされています。

## 2 目的

地教行法第 26 条の規定に基づき、教育委員会は教育に関する事務の管理や事業の執行状況について点検及び評価を行い、効果的な教育行政の推進に資するとともに、事務事業における透明性の確保と町民への説明責任を果たすことを目的とします。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 3 点検・評価の内容

三朝町教育委員会は、「ふるさと」を輝かせ 心豊かに学び合う “みささ人（びと）” の育成」を基本理念として令和 2 年 5 月に改訂した「三朝町教育大綱」の基本方針と、「みささっ子教育ビジョン」の基本目標及び具体的施策に沿った具体的事業の実績をとりまとめ、それぞれの目標値に照らし合わせた成果と課題を基に内部評価を行った後、学識経験を有する者等の識見を活用するため教育行政評価委員会からの意見を聴取し、客観性を確保するとともに今後の課題や改善策をまとめました。

計画 (Plan・教育事業計画) → 実行 (Do・事業実施) → 検証 (Check・第三者評価) → 改善 (Action・事業改善) の PDCA サイクルを回すことにより、教育行政の効果的な事業推進を図ります。

## 4 議会・町民への報告

報告については、「三朝町教育委員会の事務に関する評価報告書」として議会に提出した後、町のホームページに掲載し、広く町民の皆さんに見ていただけるようにします。

## 5 評価の対象及び手法

### (1) 評価対象事業

三朝町教育大綱及びみささっ子教育ビジョンに基づき策定した「令和 7 年度三朝町教育事業計画書」に掲載した 62 の具体的事業を対象としています。

## (2) 評価の手法

教育行政評価シートにより、内部評価として各事業の実施状況及び成果と課題について事務局で点検・評価を行い、それをもとに教育委員会会議において三朝町教育大綱の基本方針別みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策ごとの評価を実施した後、教育行政評価委員会による外部評価を行って問題点を明らかにし、課題や具体的な改善内容、今後の方向性を検討するとともに、三朝町教育大綱の基本理念に沿った教育行政が執行されているかどうかに着目して評価を行いました。

## (3) 評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

## 6 評価結果の概要

### (1) 内部評価

内部評価は、令和7年度三朝町教育事業計画において目標値を設定した62の具体的事業について、前述の評価基準により事務局が4段階で自己評価を行いました。

達成度	A	B	C	D
具体的事業数（事務局評価）	43	16	3	0

### (2) 教育委員会評価

教育委員会評価は、内部評価の結果をもとに、令和7年度三朝町教育事業計画における重点項目と三朝町教育大綱の基本方針6区分別みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策ごと（全31項目）について、教育委員が評価を行いました。

達成度	A	B	C	D
具体的施策数（教育委員会評価）	20	9	2	0

### (3) 教育行政評価委員会評価（外部評価）

外部評価は、内部評価と教育委員会評価の結果をもとに、教育行政評価委員が客観的な見識で4段階評価を行いました。

【令和7年度分 三朝町教育行政評価委員】（順不同）

氏名	選出区分
清水 成眞	地域代表（地域協議会の役員）
加藤 晶子	保護者代表（学校の保護者会の役員）
吉田 朋幸	学識経験者

達成度	A	B	C	D
具体的施策数（外部評価）	20	10	1	0

#### （４）評価結果の総括

令和7年度分の点検・評価において、評価項目ごとに各委員からさまざまな意見や具体的な改善案の提案をいただきました。

まず、令和7年度三朝町教育事業計画において新規で重点項目とした、中学生フランス交流事業及び小中学生台湾交流事業について、どちらも生徒のホームステイをはじめとした異文化交流は大変貴重な機会という意見をいただきました。一方で、意欲的に参加する仕掛けづくりも求められており、小学生の段階から国際交流に触れる機会をより一層設けるなどの改善が必要です。

また、令和7年度も引き続き重点項目とした部活動地域移行に向けた取り組みについては、指導者や町内の受皿となる団体の確保など、課題の解決策が依然として見えていない状態となっています。こうした中で、人口減少が進む現状において、町内だけで解決しようとするのではなく、中部圏域での対応を検討することはもちろん、部活動の数を減らすなどの抜本的な見直しが必要との具体的な提案もあり、従来のやり方に捉われない対策が急務となっています。

全体の点検・評価結果をとおしていただいた多くの意見を受け、事務局の各所管では、継続事業について十分点検を行ったうえで、進めるべきものについては適切に維持発展を図りながら進めていきます。その他、教育委員及び教育行政評価委員の意見については、「8. 評価結果と各委員の意見等」に記載しています。

教育活動は、事業の実施による結果が直ちに出るものは少なく、その成果を示すことが難しいのが実情です。しかし、成果を検証して改善を加えていくという観点から、適切だと判断される数値等の目標を掲げ、課題解決に向けた取り組みを行うことは必要です。三朝町教育大綱における基本理念の実現を目指し、社会の変化や時代の発展を見据えた教育行政を推進するため、教育上必要な需要を的確に把握し、事業の必要性や優先度を十分検証したうえで計画的に事業を執行していくことが重要であり、かつ、限られた財政状況の中で事務の効率化を図り、国県補助等を活用した財源の確保に努める必要があります。

三朝町教育委員会では、今回の評価結果を踏まえた今後の方向性等を次年度の教育事業計画に反映させ、各事業を進めていくこととしており、今後も定期的に事業の点検と評価を実施しながら、必要に応じて事業の改善や見直しを行い、効果的な教育行政の推進に努めていきます。

## 7 令和7年度施策と成果指標

三朝町教育大綱基本方針別みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策にかかる具体的事業  
※ピンク色は重点事業

教育大綱 基本方針	みささっ子教育ビジョン 基本目標と具体的施策	具体的事業	R7 目標値
(1) 未来を拓く 「生きる 力」を育て る「みささ 教育」の実 現	(1) 確かな学力の育成 I. 学ぶ意欲の醸成と学力向上	1. 三朝町教育 I C T 学びの充実推 進事業	小中学校における標準学力調 査の5教科正答率 全国平均 以上 情報モラルを学ぶ機会 通年
		2. 学力アップ土曜学習事業	外国語に特化した集合学習体 制での学習会実施
	II. 教育課題に対応する教育の 推進	3. みささイングリッシュシャワー プログラム	就学前児・小学校低学年への 外国語教室 各月2回
		4. 外国語指導助手活動事業	英検 I B A リーディング・リス ニングテストの総合スコア 英検4級合格レベル以上
	III. 特別な教育的支援の充実	5. 学校運営支援員配置事業	特別支援教育支援員に対する 研修機会の複数回提供 就学前訪問・要請に応じた訪 問及び指導助言 各園年3回
		6. 通級指導教室事業	小学校教室運営と中学校巡回 指導の年間を通じた適切な環 境維持
		7. 特別支援教育事業	特別支援教育に関する研修会 の開催 特別支援学級及び特別支援教 育主任訪問 年3回以上
	IV. 学びの連続性を重視した教 育の推進	8. 園小・園小中連携の推進	園小・園小中連携会議 年8 回以上
		9. 小中連携教育の推進	小中連携教育に関する研修機 会の提供 年3回以上
	(2) 豊かな心の醸成 I. 豊かな心の育成	10. いじめ・不登校対策事業	心の状況調査 各校年2回 調査実施後の個別教育相談 年1回以上
		11. 不登校対策支援員配置事業	中学校不登校出現率 前年度 以下
		12. 心の教室相談員設置事業	心の教室利用者数 月平均 20人以上
	(3) 健やかな体の育成 II. 健康教育の推進	13. 命を大切にする学習事業	授業実施回数 各校年2回以 上
	(5) 豊かに関わる力の育成 II. 多様な交流活動の充実とコ ミュニケーション能力の向 上	14. 中学生フランス交流事業	全校生徒が事業に触れる機会 年3回以上
		15. 小中学生台湾交流事業	全校生徒が事業に触れる機会 年3回以上 小学校児童交流計画の策定
		16. 小学校相互交流事業	オンラインによる学校間交流 の実施 年2回以上
		17. 大人の背中運動	子どもよりまず大人が相手の 目を見て気持ち良いあいさつ をすることの習慣化に向けた 呼び掛けの徹底
		18. 三朝町・城陽市文化スポーツ交流 事業	参加者数 上限の70%以上 参加児童の交流満足度 70%

教育大綱 基本方針	みささっ子教育ビジョン 基本目標と具体的施策	具体的事業	R7 目標値	
(2) ふるさとを 学び・愛する 「みささ 人(びと)」 の育成	(4) ふるさと愛の醸成 Ⅰ. ふるさとを愛する教育の推 進	19. 創意と特色ある学校づくり推進 事業	各校で独自の特色ある学習の 実施	
		20. 総合的学習事業	各校で体験学習の実施	
		21. みささ町かがやく子どもフェス ティバル開催事業	来場者数 500 人 事業参画団体 10 団体	
	(5) 豊かに関わる力の育成 Ⅰ. 社会参画意識の醸成	Ⅱ. ふるさとに触れる機会の充 実	22. 地域が育てる子ども総合対策事 業	あおぞら体験塾参加者数 30 人/回 体験塾に参加して楽しかった と回答した児童の割合 70%
		23. 子ども・若者の地域参画推進	子ども・若者の地域参画企画 の創出 2回以上 中高生・大学生のボランティ ア活動 延べ100人以上	
(3) 安心・安全 な教育環境 整備と地域 と共に歩む 学校づくり	(6) 教育コミュニティづくりの 推進 Ⅰ. 地域一円の学校支援	24. コミュニティ・スクール推進事業	学校運営協議会の開催 学校ボランティア登録者のボ ランティア実施率 70%	
	(7) 教育環境の充実 Ⅰ. 学校教育における質の向上	25. 教職員指導力向上研修事業	教職員集合研修機会の提供 年3回以上	
		Ⅱ. 学校施設の整備充実	26. 学校施設維持修繕事業	小中学校緊急的維持修繕への 対応
	27. 小学校施設整備事業		周辺工事の安心・安全な完成 と円滑な供用開始	
	28. 教科書改訂特別事業		学習指導要領改訂及び特別支 援学級への進級に伴う教師用 教科書・指導書、デジタル教 科書等の整備	
	29. OA機器等備品整備事業		G I G A 2期整備の円滑な端 末更新 中学校校務用 P C 更新	
	30. 調理センター施設管理事業		施設の確実な点検の実施	
	Ⅲ. 児童生徒の通学支援	31. 放課後児童対策事業	利用希望児童受入率 100% 指導員研修の実施 年複数回 学童クラブのあり方方針確定	
		32. 高校生等遠距離通学費補助金事 業	補助対象生徒の制度利用率 90%	
		33. 小中学校遠距離通学費補助金事 業	補助対象児童生徒の制度利用 率 100%	
		34. 就学援助事業	対象者への必要な援助の実施	

教育大綱 基本方針	みささっ子教育ビジョン 基本目標と具体的施策	具体的事業	R7 目標値
(4) 生涯スポーツ活動の普及と健康な心と体づくりの推進	(2) 豊かな心の醸成 II. 情操教育の推進	35. 中学校運動部活動外部指導者派遣事業	必要な外部指導者等の配置 外部指導者 3人、部活動指導員 5人
		36. 部活動地域移行に向けた取り組み	検討委員会の開催と町推進計画の策定
		37. 三朝町スポーツ少年団補助金事業	団員数 130人 単位団指導者研修会、支援の実施
	(3) 健やかな体の育成 I. 体力向上の推進	38. スポーツ推進委員活動事業	スポーツ推進委員主催事業の企画・実施（スポーツ教室など）
		39. 三朝町体育協会委託金事業	各種スポーツ大会等参加者数 900人
	II. 健康教育の推進	40. 食育推進事業	県産地消費率 95%以上 園小中の食育取組成果発表年1回 給食レシピ公開 年6回以上
(5) 生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現	(2) 豊かな心の醸成 I. 豊かな心の育成	41. 人権啓発講演会等事業	人権講演会・講座等参加者満足度 80%以上
		42. 人権教育推進協議会委託金事業	人権学習機会の創出 学習活動延べ参加者数 800人
		43. 人権教育推進員設置事業	人権教育推進員のコーディネートによる人権教育の実施（人権学級、人権出前講座等）
	II. 情操教育の推進	44. 移動図書館サービスの充実	各園、子育て支援センター、各学童クラブ 計5か所 月1回 各集落・事業所等 25か所 月1回
		45. 子どもたちの読書活動と学習活動を支援	お話会（館内、各園、子育て支援センター、西学童クラブ、バイオリン美術館等） 年60回 小中学校学習資料貸出 3,500冊 中学校図書委員選書・配本年6回 子どもが楽しめる行事 年2回
		46. 乳幼児の読書に親しむきっかけづくり	ブックスタート 4回/年 ブックセカンド 10組 健診時のおはなし会 年9回
		47. 人と本の出会いの場づくり	テーマ選書展示 一般コーナー 15回、児童書コーナー 20回 各種教室の開催 年29回
	(3) 健やかな体の育成 II. 健康教育の推進	48. 家庭教育支援推進事業	園、学校における子育て親育ち講座の開催数 園2回、小中学校各1回

教育大綱 基本方針	みささっ子教育ビジョン 基本目標と具体的施策	具体的事業	R7 目標値
(5) 生涯学び、 成長できる 豊かな暮らしの実現	(4) ふるさと愛の醸成 Ⅰ. ふるさとを愛する教育の推進	49. 生涯学習講座「三朝大学」開催事業	町民の生涯学習機会の提供 受講者の年間満足度 80%以上
	Ⅱ. ふるさとに触れる機会の充実	50. 気軽に利用しやすい図書館づくり	入館者 25,000 人 登録者 8,000 人 貸出冊数 個人 70,000 冊 団体 15,000 冊 (移動 12,000 冊)
		51. より豊かで質の高い蔵書体系の構築	蔵書 110,000 冊
		52. ニーズに応えるきめ細かなサービスの提供	リクエストサービス 5,000 件 相互貸出サービス 3,500 件 相談業務(リファレンス) 1,500 件 障がい者サービス 500 件
		53. 情報発信の強化	ホームページ更新(月5回)
		54. 郷土資料の収集・適正管理保存・提供	新規収集・適正保存 100 冊 展示による周知・継承 年1回
		55. 地域住民の活動発表、コミュニティの推進	特集・共催展示 12 回 図書館行事 15 回 ミニ講座 2 回 図書館ボランティア推進 8 人
	(5) 豊かに関わる力の育成 Ⅲ. 視野の広い人材育成の推進	56. 未来を拓けみささっ子創造事業	将来の参考になったと答えた生徒の割合 70%以上
(6) 文化、伝統、 地域資源 (文化財) の継承と芸術の振興	(2) 豊かな心の醸成 Ⅱ. 情操教育の推進	57. 青少年劇場開催事業	開催内容に興味を持った児童生徒の割合 70%以上
		58. 三朝町将棋フェスティバル開催事業	イベント参加者数 150 人 将棋啓発イベントの企画
	(4) ふるさと愛の醸成 Ⅰ. ふるさとを愛する教育の推進	59. 文化振興事業	三朝町文化サークルの支援 三朝町芸能文化祭の実施
		60. 三徳山遺跡発掘調査等事業	神倉「上宮」地点の調査実施と成果の整理
		61. 文化遺産等調査研究事業	調査成果報告会 年1回
		62. 日本遺産活用推進協議会補助金(保存事業)	日本遺産三徳山三朝温泉を守る会の支援

評価区分

令和7年度三朝町教育事業計画における重点項目

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(1) 確かな学力の育成 I. 学ぶ意欲の醸成と学力向上	1. 三朝町教育ICT学びの充実推進事業	継続	小中学校における標準学力調査の5教科正答率→全国平均以上 情報モラルを学ぶ機会→通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン教材の整備により、授業のみでなく、家庭でも学力向上に励むことができる環境を整備した。 小学校：3年生以上の児童に「タブドリLive!」 中学校：全学年に「テラトーク」</li> <li>標準学力調査 小学校：全学年 3学期に1回実施 中学校：1～2年 1、3学期に実施 3年 1学期に実施</li> <li>ICT活用教育担当者会を年4回開催（県教委教育DX推進員も参加）し、学習者主体の学びにつながる授業づくり等について共有した。またGIGA2期の端末更新に係る協議を行った。</li> <li>学習者主体の学びの実現に向けた教育DX推進研修会（中部教育局・中部1市4町合同開催）</li> <li>GIGAスクール構想の実現に向けた計画書に基づき、学校における教育ICT機器の活用を支援するため、ICT支援員を週1回半日ずつ各校へ派遣。教材作成や授業支援、研修を行った。</li> <li>GIGAスクールサポーターに端末管理の中心的立場という役割を与え、学校中心の端末管理へ移行した。</li> <li>欠席の児童生徒、別室登校の児童生徒に対する授業オンライン配信の実施。</li> <li>情報モラルを学ぶ機会としては、通年のタブレット活用の中で度々指導が行われており、その他、警察を招いての学習会も実施された。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準学力調査について、小学校の各学年正答率は、6年生を除き全国平均を上回っている。6年生は英語で全国平均を上回った。先生方がどの学習場面、学習活動で一人一台端末を活用すると効果的かを判断しながら児童の主体的な学びにつながるよう授業づくりを進めている。</li> <li>標準学力調査の中学1年生の正答率は、理科を除いて全国平均を上回った。</li> <li>各校の情報活用能力カリキュラムに「情報社会に参画する態度」を位置付け、情報モラルについて系統的に学習を進めている。タブレット利用、SNS関係の問題が発生した際には、必要に応じて外部機関と連携しながら素早く対応し、経過観察により適切に対応できた。</li> <li>GIGAスクールサポーターの支援でタイピングスキルが向上しており、タイピング全国大会での入賞者もある。</li> <li>小学3年生以上は、長期休暇における宿題にタブレットを使った課題設定もしており、活用率がかなり高い。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準学力調査において、中学2年生については全ての教科で全国平均を下回った。中学校では教科によって一人一台端末の効果的な使用についての認識に差がある。専門性がゆえに授業スタイルや意識の変容が進みにくいため、研究推進を中心に据え、授業改善に向けた取組内容、方法等を全職員で共有するとともに、互いの授業を見合っして協議する機会を増やす必要がある。</li> <li>中学校でオンラインスピーキング教材を導入したが、授業の中で効果的に使用することが難しいという理由から単年で終了となった。授業以外での活用も十分に可能であったことから、教員の意識改革が課題。</li> </ul>	B	B	B	<p>◎ICT活用に関しては、メリットとデメリットを把握したうえでの活用をお願いしたい。</p> <p>◎全国平均を下回った科目についての対策と対応をしっかり考えていただき、新学期から着実に力をつけていける授業をお願いしたい。</p> <p>◎情報モラルについての学習や指導は行われていて、問題が起こった場合にはその都度対応されていると思うが、何度も繰り返し繰り返し児童生徒には伝えていく必要がある。この点にもより力を入れていただきたい。</p> <p>◎特に中学校のICT活用に教科間で差があるように感じる。ICTを活用しなくても学力をつける手法はたくさんあるが、時代の中でICTを効果的に使用することが学校に義務付けられている状況であれば、どの教科の授業においても効果的にICTを活用することを意識し、子ども達の知的好奇心を高める工夫を期待する。</p> <p>★標準学力調査において、中学2年生については全ての教科で全国平均を下回った事は残念ではあったが、今後の取り組みに期待したい。教材の選び方は、今後の課題であると思う。</p> <p>★情報が氾濫する社会の中でも、メディアの性質を正しく理解して活用できる力を育てほしい。PTA活動の縮小が進み中ではあるが、子どもだけでなく保護者のメディアリテラシーの向上に関する取り組みも引き続き必要だと思う。</p> <p>★ICTを活用した教育が学校に導入された当初、三朝町は研究指定を受け職員のICT活用資質の向上を図った。そのため三朝町は活用先進町として大きく注目を受けた。生徒も自身で三朝町のCMビデオを撮影、編集し修学旅行での会社訪問では三朝町をプレゼンするなど高いレベルが認められていた。これは、現在の中学生による人権ビデオ作製にもつながっていると思う。県教委とも連携し、現場の教職員の指導力資質向上を強化する必要があると感じる。</p>	1. 三朝町教育ICT学びの充実推進事業 →全国学調、とっとり学調の分析や、校内授業研究会をふまえた学力向上の取組を継続する。令和7年度末でICT支援員の配置がなくなったことで、授業づくりでのサポートが受けられなくなったため、県教育DX推進員の協力を検討したい。 →情報モラル及び情報リテラシー教育に関しては、児童生徒を対象とするだけでなく、保護者研修会や学級懇談のテーマとして扱うことなどを学校へ提案することとしたい。

評価区分

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

令和7年度三朝町教育事業計画における重点項目

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(1) 確かな学力の育成 II. 教育課題に対応する教育の推進	3. みささイングリッシュシャワープログラム	継続	就学前児・小学校低学年への外国語教室 一各月2回	町内各園及び小学校低学年において、教員、小学校外国語指導助手及び外国語活動職員により、楽しみながら英語に触れる機会を提供。幼児期から中学校まで切れ目ない本町独自の英語教育を実践した。 ・保育園での外国語活動 月2回 ・小学校低学年での外国語活動 月2回 ・MESP担当者会 年2回	【成果】 ・年間計画に沿って歌、手遊び、絵本の読み聞かせなど、ALTと外国語活動職員が連携をとりながら計画的に進めることができた。園と一緒に活動したALTと外国語活動職員が小学校でも同様に学習に入ることから、園からのスムーズな接続の中で楽しく学習に取り組んでいる。 ・中学校ALTが3学期に小学6年生の授業にTTで参加した。中学校進学へ向けてよい連携の機会となった。 ・園小中の担当者が集まって、年間計画の確認、取り組みの情報共有や連携についての改善案等について協議し、取り組みに生かすことができた。 ・中学生が、フランス台湾交流において積極的に英語でコミュニケーションをとうろうとする姿、小学生がオンライン交流で英語を交えた交流を行うなど、身に付けた力を活用する機会となっている。  【課題】 ・中学3年生の「英検3級以上合格レベル」の生徒割合を70%（令和7年度は63.8%）と設定し、取組を進める。	A	A	A	◎イングリッシュシャワープログラムの活動は素晴らしいと思うが、経過等も含め定例会の前の事前学習会とか、実際の学習活動を拝見させていただければありがたい。 ◎英語が特別なものではなく、幼いころから身近にあるものであるよう、今後も取り組んでいただきたい。 ◎可能であれば、外国語教室の回数を増やし、より英語に親しめる時間を作っていたらと思う。 ◎保育園、小学校で台湾との交流がスタートし、英語を活用する機会が増えた。これをきっかけに英会話を楽しむ子どもたちが増えることを期待する。また、中学校3年生卒業時の英語の力を英検3級以上とすることを目標としているが、1年時からどれ区代力がついてきているのか検証していく方法があれば、全体の取り組みの励みとなりそう。  ★就学前児・小学校低学年への外国語教室の取り組みは今後、国際社会で活躍できる人材を育てる上で非常に良い取り組み。 ★自分が小中学生だった頃と比較すると、子ども達の英語への親しみは各段に深くなっていると思う。今後進んでいく道の選択肢が増えることを期待する。 ★国際交流は小中はもちろん保育園でも始まった。フランス交流、台湾交流などは生徒にとって英語を学ぶ上で大きなきっかけになっていることは否めない。全国学力テストでの三朝中学校の英語力は県内でもトップクラスであった。当時と現在何が違っているのか、分析検証していただきたい。 ★三朝町は温泉や三徳山を中心とした観光の町であり、海外から訪れる外国人も多い。外国人と町民が片言でもいいから英語でコミュニケーションをとる町を目指していただきたい。	3. みささイングリッシュシャワープログラム →園の外国語活動日及び中学校教諭による兼務の授業時間割を提供し、学習活動の参観機会を提供したい。併せて令和8年度中に定例会事前学習で報告を行うこととしたい。 →学校は、毎年実施している英検I B Aの結果をもとに、生徒の強みや課題を検証している。MESP担当者会での議題として協議してみたいこととする。

評価区分

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

令和7年度三朝町教育事業計画における重点項目

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(1) 確かな学力の育成 IV. 学びの連続性を重視した教育の推進	8. 園小・園小中連携の推進	継続	園小・園小中連携会議 一年8回以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>合同園長・校長会の開催 年3回</li> <li>小中学校校長会 年11回</li> <li>園小連絡協議会 年2回</li> <li>園小連絡協議会実務者会議 年4回</li> </ul> <p>各所属長による協議や情報交換の場を計画的に設定し、各園・学校で取り組んでいることや園児児童生徒の姿、課題等を共有した。子育て12か条の推進についても協議した。園小連携会議では、保育参観、授業参観をもとにした実務者会議を開催し、架け橋期のカリキュラム作成に係る協議を行い、接続・連携を図った。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連携に係る会議は計画どおり実施することができ、各園、学校の特色ある取組、重点的な取組や子どもの様子、課題等について共有することができた。</li> <li>園小は、令和5、6年度の県事業の成果（町独自の連携スタイルの確立、子どもの姿の焦点化した見取り、交流における指導者の意識改革等）を引継ぎ、架け橋期のカリキュラムの完成に至った。今後はこのカリキュラムを使った連携を進めていくこととする。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学後の子どもたちの大きく成長した姿を見て、園の担当者は驚きと喜びを感じている状況である。これが、園小の連携による成果であるのか小1担任の力量によるものであるのかの検証は引き続き行っていく必要がある。</li> </ul>	A	A	A	<p>◎以前より連携が進んでいる様子が、園訪問や授業参観で感じることができ、今後ますますの連携強化に期待している。</p> <p>◎園小連絡協議会において、年間計画を見直しながら連携を進めている。また、2年間指定を受けて取り組んだ、架け橋期のプログラムもある程度まとってきた。これをもとにより一層の連携を期待するとともに、園小の連携が年長と1年生の担任だけの連携にとどまることなく、園全体、学校全体の意識として定着していくことを期待する。</p> <p>★家庭教育の大切さが叫ばれている今、「子育て12か条の推進」は大きな意味がある。今後の推進強化に期待したい。</p> <p>★連携は進んでいるように感じるが、保育園が小学校を訪問する際、本連携が担当の先生のみで進められているのではないかと感じるという意見が多くある。</p>	8. 園小・園小中連携の推進 →毎年、連携のあり方を協議しながらよい方向に進んでいる。担当の先生だけでなく、園・学校全体の取組となるよう研修を開催予定である。
	9. 小中連携教育の推進	継続	小中連携教育に関する研修機会の提供 一年3回以上	<p>研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育研修会</li> <li>各校授業研究会（各校2回設定）への参加機会の提供</li> <li>指導力向上研修会（岡山大学教師教育開発センター高旗浩志教授招聘）</li> </ul> <p>担当者会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>I C T活用教育、生徒指導、通級、人權教育、英語教育担当者による会議を定期的に開催し、連携を図った。</li> </ul> <p>中学校教員に小学校の兼務発令を行い、算数、体育、図画工作、音楽で小学校での授業を行った。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校の全職員が小学校の授業を参観し、小学校でつけた力をさらに伸ばしていくための授業づくりについて意識を高める機会となった。</li> <li>指導力向上研修会では、小中学校の先生が混在した小グループで協議を行い、互いの教育を理解する貴重な時間となった。</li> <li>中学校教員の小学校兼務による授業は教員及び児童ともに満足度が高く、小中それぞれの指導に生かす機会としても有効であった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさとキャリア教育年計については、今年度の取組状況をふまえて、学校運営協議会との連携により進めていくこととしたい。</li> </ul>	A	A	A	<p>◎中学校教員の小学校兼務について、もっと保護者に発信したり様子を伝えることは出来ないか、学校がどのような体制で授業に取り組んでいて、その成果としてどのようなことがあるのか、広く知っていただける機会があればと感じる。</p> <p>◎9年間を見据えたふるさとキャリア教育の計画の見直しはできたかどうか？先生方の合同研究協議や小学校での中学校教員の授業等は互いを知る良い機会となっていると思う。今後もさらなる充実を期待する。</p> <p>★将来的に、児童数、生徒数が減少し、各学年が1クラスとなる。その場合、将来的に「小中一貫校」「義務教育学校」などが検討されることだろう。今後の事も考え、「小中連携教育に関する研修会」においても協議材料として考えられるのではないかな。</p>	9. 小中連携教育の推進 →兼務については2年目となり、成果が見られているため、まちづくり推進課と連携し、町報での広報を検討したい。 →令和8年度は、小中連携教育に係る研修会講師として長年本町教育に関わってくださった岡田の高旗教授を訪問し、将来的な三朝町教育のあり方について検討をスタートしていく年となる。

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（70%～80%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（50%～70%）
ランクD	不十分（30%～50%）

令和7年度三朝町教育事業計画における重点項目

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(5) 豊かに関わる力の育成 II. 多様な交流活動の充実とコミュニケーション能力の向上	14. 中学生フランス交流事業	継続	全校生徒が事業に触れる機会 一年3回以上	本町と友好姉妹都市提携を結ぶフランス共和国ラマルー・レ・パン町へ中学生を派遣し、中学生における豊かな感性と国際感覚を身に付ける機会を提供した。 また、令和7年度はラマルー町の意向により、初めて中学生の受入も行った。 【派遣・受入期間】 (派遣) 令和7年10月7日(火)～14日(火)の5泊8日間 (受入) 令和7年11月14日(金)～19日(水)の5泊6日間 【派遣・受入人数】 (派遣) 生徒6名(応募者14名、倍率2.3倍) + 引率4名 計10名 (受入) 生徒5名 + 引率3名 計8名 【実施内容】 (派遣) バリ視察、ホームステイ3泊、ページェ及びラマルー町内視察、小・中学校訪問、スポーツ及びイベント参加交流など (受入) 小中学校訪問・交流、ホームステイ3泊、町内外観光地等視察、ベタンク協会協力によるベタンク交流など 【報告】 プレゼン資料を作成し、中学校文化祭及び子どもフェスティバルで発表の後、報告書を教育委員会へ提出(関係先へ配布) 【その他】 ・給食でフランス料理(各校年1回、国際交流員等によるレシピ提供)	【成果】 ・訪仏の報告(文化祭・子どもフェスティバル)、給食でのフランス料理提供、ラマルー町生徒受入実施により年3回以上全生徒に国際感覚を身に付ける機会を提供することができた。特に受入の実施により、次年度以降の派遣応募等への意欲醸成につなげることができたと考えられる。 ・さらに、小中で連携し、小学生や地域を巻き込んだ交流活動ができたことで、取り組みの裾野を広げることができ、町民へのPRにもつなげることができた(町広報紙にも掲載)。 ・ラマルー町中学生の受入は初めての試みだったが、国際交流員と連携した受入計画の策定及び観光交流課や引率職員の協力による受入体制の確立により、訪問者も受入側も満足感のある日程を過ごすことができた(受入後アンケートも高評価だった)。 【課題】 ・引率教諭の関わりがやや希薄であるため、次年度からは派遣教諭決定後、早期に打合せによる密な連携を図っていく。 ・生徒の報告書が十分に作りこめていないと感じられるため、最後まで行き届いた指導を学校へ促していく。	A			◎事業の今後の在り方等、再検討の時期が来ているのかと感じる。 ◎最近参加を希望する生徒が少なくなっているという声を聞くが、小学校時代に国際交流員との交流があり授業も行っている。国際交流員との連携を密にし、中学校になったらフランスに行ってみたく感じるような授業を、小学校から意図的に仕掛けていくことが必要だと思う。 また、参加しない理由がホームステイの受け入れをしなければならないということならば、一考してほしい。 ★国際的な交流は、子ども達にとって素晴らしい体験となることだろう。特にホームステイ3泊は、とても貴重だと思う。できれば5泊ぐらい出来たら、より一層素晴らしい事業になると考える。教育委員さんが「参加を希望する生徒が少なくなっているという声を聞く」と書いてあるが、もしそうであるならば、何が原因なのかを把握することが大切ではないだろうか。 ★成果は一朝一夕には出ないが当初の目的が達成できるように期待したい。募集しても生徒の手が上がらず、二次募集をしていると何う。人数合わせをして、単なる物見遊山にならないように、なぜそうなるのか検証してほしい。	14. 中学生フランス交流事業 →訪仏後、体験発表の機会を文化祭など複数回設けているが、実際に次年度募集の際にも改めて心構え等を含めた宣伝をするなど、学校と連携して検討することしたい。 (ホームステイを体験した生徒は、各々が成長した部分、これからの課題をそれぞれ感じしており、生の声は大変貴重なものである。)
	15. 小中学生台湾交流事業	継続	全校生徒が事業に触れる機会 一年3回以上 小学校児童交流計画の策定	三朝中学校と姉妹校協約を結ぶ台中市立石岡国民中学との相互派遣を行って、中学生における豊かな感性と国際感覚を身に付ける機会を提供した。 また、令和7年度は台中市立土牛國民小学の希望により、初めて小学生の受入も実施した。 【派遣・受入期間】 (派遣) 令和7年10月15日(水)～20日(月)の5泊6日間 (受入) 令和7年11月5日(水)～9日(日)の4泊5日間 【派遣・受入人数】 (派遣) 生徒10名(応募者11名、倍率1.1倍) + 引率5名 計15名 (受入) 石岡國中: 生徒14名 + 引率4名、土牛國小: 児童5名 + 引率4名 計27名 【実施内容】 (派遣) 石岡区内視察、ホームステイ3泊、石岡國中訪問・交流、台北市内観光地視察など (受入) 中学生ホームステイ3泊、授業交流など 【報告】 プレゼン資料を作成し、中学校文化祭及び子どもフェスティバルで発表の後、報告書を教育委員会へ提出(関係先へ配布) 【その他】 ・給食で台湾料理(各校年1回) ・小学校長同士のオンライン交流実施 ・三朝小学校長等訪問団の土牛國小訪問 ・クリスマス及び年度末の中学生オンライン交流 ・クリスマスカード贈り	【成果】 ・訪台の報告(文化祭・子どもフェスティバル)、給食での台湾料理提供、石岡國中生徒及び土牛國小児童受入実施等により、年3回以上全生徒に国際感覚を身に付ける機会を提供することができた。特に受入の実施により、次年度以降の派遣応募等への意欲醸成につなげることができたと考えられる。 ・さらに、小中で連携した受入実施ができたことで、取り組みにおける小中連携を深めることができた(町広報紙にも掲載)。 ・土牛國小児童の受入は初めての試みだったが、小中学校、県国際交流員及び通訳者羅房氏と密に連携した受入計画の策定及び引率職員の協力による受入体制の確立により、訪問者も受入側もある程度満足感のある日程を過ごすことができた(受入後アンケートも高評価だった)。 ・相互派遣以外のオンライン交流も学校主体で積極的に複数回実施されており、今後も安定的に交流が継続されていく基盤が形成されたと感じられる。 【課題】 ・これまで交流への関わりがなかった小学校も交流主体となったが、積極的な姿勢になり切れていないため、特に管理職への意欲の醸成を促していく。 ・生徒の報告書が十分に作りこめていないと感じられるため、最後まで行き届いた指導を学校へ促していく。	A	A	A	★台湾台中市との交流は、費用的な面においても比較的参加しやすいと思う。今回、小学生児童を初めて受け入れたことは、今後の交流事業として継続拡大すべきだと思う。 ★何年も前になりますが、子どもが台湾を訪問させていただき、また自宅でもホームステイの受け入れもさせていただき、貴重な経験となった。交流後のわが子は人が変わったように様々な活動に積極的に取り組むようになり、世界を感じることも、異なる文化に触れることの大切さを実感した。受け入れ体制の整備については課題もあると思うが、ぜひ継続していただきたい取り組みだと思う。	15. 中学生台湾交流事業 →フランスとの交流事業と同様、異文化に触れる貴重な機会であり、引き続き学校と協力して、参加意欲が深まるよう取り組みたい。 →令和7年度は小学生児童を受入れ、小学校同士での交流を実施したことで、新たな繋がりができたため、令和8年度も引き続き受入を予定している。

評価区分

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

令和7年度三朝町教育事業計画における重点項目

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(6)教育コミュニティづくりの推進 I. 地域一円の学校支援	24. コミュニティ・スクール推進事業	継続	学校運営協議会の開催 学校ボランティア登録者のボランティア実施率→70%	学校運営協議会委員の委嘱 小学校 14名 中学校 13名 学校運営協議会の開催 小・中合同開催も併せて 4回開催 ・ボランティア登録者数 45名 ・延べ活動日人数 431名 学校運営協議会統合検討会の開催（4回） C S関係者連絡会の開催（9回）	【成果】 ・専任の地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）を設置し、学校運営協議会の体制及び地域学校協働活動の取り組み強化を図ることができた。特に、学校行事の支援、家庭科などの学習支援のボランティア活動が充実した。 ・学校運営協議会を小中合同合わせて4回開催し、運営協議会の統合に向けた課題等について熟議を実施した。なお、令和8年4月から1つの学校運営協議会でスタートすることで調整している。 ・登録ボランティア実施率91.1% ・C S関係者会議を毎月実施することで、小中学校の取組や課題を共有することができ、ボランティアによる支援をスムーズに行うことができた。  【課題】 ・地域協議会と連携し、地域協議会日より等に、地域の方の活動状況を掲載していただくなど、新たなボランティア発掘や啓発につなげる必要がある。	A	A	A	◎子どもがいない家庭や集落にとっては、学校が遠い存在になっていると思う。地域という枠で見ても、地域によっては住民が小中学生と関わることは少ない現状なので、その点を踏まえて、もっと地域協議会との連携力を入れても良いと感じる。 ◎学校支援ボランティアに登録された方の90%以上が何らかの形で学校にかかわっていただくことができていることはすばらしい。できれば100%にしたい。年間に1回でも2回でも学校に出入りしていただくことは持続的な取り組みのためにはとても大切なことだと思う。多くの方に学校にかかわってもらう機会を増やす工夫を学校運営協議会でもしっかり熟議していただきたい。  ★以前と違い、学校ボランティアの活動が活発になっていると思う。是非とも登録していただいた方を「置き去り」にせず、色々な角度で学校と関わっていただく事を期待する。 ★C Sに係る学校支援ボランティアに登録者の活用が順調なのは素晴らしい。保育園でももっとこの貴重な人的資源を活用することが必要を感じている。	24. コミュニティ・スクール推進事業 →学校支援ボランティアに登録された方は、どんな形であれ、学校行事等への関わり、支援を希望されているため、ボランティア実施率100%を目指して引き続き取り組みたい。 →随時C S関係者会議を実施しているが、会議には地域協議会関係者も参加しており、学校への関わり方を含めて、協議会との連携についても検討を行っているところである。
(7)教育環境の充実 II. 学校施設の整備充実	29. OA機器等備品整備事業	継続	G I G A 2期整備の円滑な端末更新 中学校校務用P C更新	G I G A 2期端末等の円滑な更新整備 小学校281台、中学校167台 計448台 年度内にリース端末納入、各教室へ配備 G I G A 1期端末の下取り等搬出 学校との運用情報の共有、連絡体制整備 フィルタリングソフトの新たな整備  教育I C T機器の計画的整備 中学校校務用P C15台整備 その他授業等に必要周辺機器の整備  ネットワークアセスメントの実施 授業や全国学テ等に支障のないネットワーク環境の点検と課題の確認 次年度の無線A P更新に向けた準備（設計、補助金申請、予算確保等）	【成果】 ・G I G A 2期端末等の次年度からの活用に向けた整備を円滑に進められた。 ・これまで教育委員会頼みだった機器の運用について、G I G Aスクールサポーターを中心とするやり方へ移行し、持続可能な運用体制を確立した。 ・機器運用を学校主体の体制へ移行し、活用推進会議を重ねることで、教職員のさらなる主体的な機器活用が促進された。 ・教育I C T機器の整備も計画的に進め、次年度以降の整備計画の策定も行った。  【課題】 ・新たに導入した端末管理システムを学校と共同運用し、確実な端末管理を図る。	A	A	A		
(7)教育環境の充実 III. 児童生徒の通学支援	31. 放課後児童対策事業	継続	利用希望児童受入率→100% 指導員研修の実施 一年複数回 学童クラブのあり方方針確定	放課後における児童の居場所づくりとして町内2か所に学童クラブを設置。 西学童クラブは直営、東学童クラブは三徳地域協議会へ運営を委託し、年間を通じて児童の居場所づくりに努めた。 旧三朝小学校多目的室で開所。  指導員研修の機会を年複数回実施。 指導員ミーティングを毎月開催し、情報共有を図ることで、指導員間の密な連携を図った。  令和6～7年度に学童クラブのあり方検討委員会を設置し、委員による協議を重ねて本町の学童クラブのあり方について検討。 委員会より答申を受け、町長とも方針を協議し、令和9年度からの新たな体制づくりに向けて準備を進めている。	【成果】 ・利用希望児童全員の受入ができている。 ・「笑顔あふれる西学童クラブ」の目標のもとでクラブ運営を進め、便りの発行者定期的に行い、児童の様子を保護者へ伝える努力も指導員が主体的に行なった。 ・毎月の指導員ミーティングを継続して行い、密な連携に努めた。 ・県主催の研修機会等も活用しながら、指導員への年複数回の研修機会をつくり、継続的に学ぶきっかけづくりに努めた。 ・学童クラブのあり方検討委員会からの答申を受け、今後の学童クラブのあり方についてまとめ、新たな体制づくりに向けた準備を進めることができた。  【課題】 ・指導員の高齢化と慢性的な人員不足により、事務局担当者への負担が大きくなっている。 ・ノウハウの少なさや専門性の高い職員配置の困難さにより、支援が必要な児童の受入体制が難しい状態が続いている。 ・令和8年度中に新たな体制を確立する必要がある。	B	B	B	◎支援や配慮に必要な児童の受け入れについて考えると、少しでも専門性が高い指導員がいたほうが良いと思うが、難しければ、研修会などをもっと増やしてはどうか。指導員の負担は大きいと思うが、地元の学童クラブの利用を希望する児童が、誰でも地元で過ごせような学童クラブにしていたらと思う。 ◎目標値の達成状況で判断するとAであるが、魅力的な学童クラブとなっているかという判断ではどうだろうか？いろいろな工夫や努力をされていると思うが、西学童クラブは施設の使い勝手あまりよくないと感じる。  ★指導員の人材確保が喫緊の課題で体制を再構築されるとのことだが、民間委託となる場合、通うことも遠の実態に合わせて丁寧なマッチングを進めていく必要があると感じる。	31. 放課後児童対策事業 →令和7年度において、三朝町放課後児童クラブのあり方検討委員会から、今後の放課後児童クラブのあり方について示された方向性に基づき、民間活力の導入をはじめとした検討を進めることとしている。 →提供サービスの標準化を図るため、引き続き研修機会を活用することとした。

令和7年度三朝町教育事業計画における重点項目

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(2) 豊かな心の醸成 II. 情操教育の推進	36. 部活動地域移行に向けた取り組み	継続	検討委員会の開催と町推進計画の策定	<p>三朝町部活動地域移行検討委員会（R5.6月設置）で、中学生にとってふさわしいスポーツ・文化活動のあり方について検討。</p> <p>【検討委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9名（学識経験者1名、学校代表2名、保護者代表2名、部活動担当教諭1名、地域スポーツ団体3名（スポ少、町体協、スポ推））</li> </ul> <p>【委員会の実施状況（回数は通算）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第7回（R7.6月）</li> </ul> <p>取組内容の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①休日の部活動改革</li> <li>②スポーツ少年団の中学生加入</li> </ul> <p>【検討実績（第7回検討会現在）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①休日の部活動改革 休日における中学生の活動の受皿として、地域活動ボランティアを適宜募集</li> <li>②スポーツ少年団の中学生加入 町内スポーツ少年団に受入可否等について、アンケートを実施 →受入可能2団体</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①休日の部活動改革、及び②スポーツ少年団の中学生加入と2つの取組方針を確認し、左記のとおり進めているところ。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者の確保や町内の受皿となる団体が無いこと等、平日の部活動地域移行に関する課題の解決策は依然として見えておらず、現実的かつ持続可能な部活動の地域移行を実現するためには、抜本的な解決策をどのように見出すかが課題となる（スポーツ少年団とは別に、三朝町体育協会の各競技部に対しても、受皿として照会予定）。</li> <li>・生徒、保護者、教員のニーズに合った取り組みにすることも重要である。</li> <li>・同様の課題を抱える中部地区の連携について、検討が進んでいない（指導者不足への対応など）。</li> </ul>	C	C	C	<p>◎部活動地域移行の方向性は今後どうなっていくのか各県レベルではなく、国の方針をはっきりさせていかなければ現場は困ったままになる。国の方針がはっきりしないのであれば、引き続き外部指導者や外部指導員の確保に努めて欲しい。</p> <p>◎町内だけでは難しいのではないかな。</p> <p>◎三朝中学校は5年後には100人程度の規模の生徒数になる。到底現在の部活動をそのまま維持することは非常に困難となることが予想される。部活動の加入自由化も進んでいることから、思い切って部活動の数を減らすことと地域移行を同時進んで取り組んでいかないといけない時期だと思う。</p> <p>★部活動地域移行は、国が進めてはいるが、人材・受け入れ団体の確保が困難ではないか。現状を分析し、今後の方針を早急に検討することが大切だと思う。</p> <p>★課題としても記載があるように、町内にとどまらず中部圏域で検討を進めていく方法も良いと思う。</p> <p>★このことは、国の計画が示された時から予想されていたことである。三朝町だけの取り組みなら部の数を減らし絞って運営することが必要。三朝町単独の取り組みは難しい。中部地区1市4町の取り組みなど行政枠を超えた対応が急がれる。</p> <p>7年後の国スポ鳥取大会。三朝町からも選手を出したいものである。その夢に向けた施策もみんなで考えたい。</p>	<p>36. 部活動地域移行に向けた取り組み →実現可能な施策から早期に実施できるような検討を加速する。</p> <p>→特に、休日の部活動改革について、休日における外部指導者（指導員）や地域ボランティアによる運営移行（体制の構築）を目指す。</p>

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（70%～80%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（50%～70%）
ランクD	不十分（30%～50%）

（1）未来を拓く「生きる力」を育てる「みささ教育」の実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(1) 確かな学力の育成 1. 学ぶ意欲の醸成と学力向上	2. 学力アップ土曜学習事業	継続	外国語に特化した集合学習体制での学習会実施	<p>中学校3年生及び、訪仏訪台事業に参加する2年生の希望者を対象として学力アップ講座（英語）を開催</p> <p>期間：夏季休業中の7日間 場所：三朝中学校多目的ホール 講師：各校ALT、町国際交流員、外国語活動職員、ボランティア1名 内容：英語ゲーム、テーマに沿った英会話（All Englishで実施） 参加者：13名</p>	<p>【成果】 ・令和6年度の成果と課題をふまえ、ALT2名が中心となり充実した活動となった。積極的に英語でやりとりしようとする姿が見られ、参加した生徒のアンケートでも、満足度は非常に高かった。</p> <p>・ボランティア1名の協力により、期間中は4名体制で実施することができた。</p> <p>【課題】 ・年間をおとした取組、部活動に代わる取組等の提案をいただいたが、2年目となる取組であるため検討段階には入っていない。今後、部活動の地域展開の検討と併せて実現の可能性を探っていきたい。</p>	A	A	A	<p>◎最低でも5年くらいは今の体制で実施し、成果と課題をしっかりと浮き彫りにすることが大切だと思う。</p> <p>◎4人体制での実施となり、より充実した取り組みになったこと、また、何より参加した生徒の満足度が高かったことは良かったと思う。</p> <p>◎参加者が13名というのは少ないのではないかと、より多くの生徒が参加できるような働きかけも必要ではないかと。</p> <p>◎英語に特化した学習ボランティアの登録もあり、年間を通した取り組みができないか検討しては。</p> <p>★参加した生徒の満足度が高い事業として、評価できる。三朝町在住で英語ができる方がいると認識している。このような方をボランティアとして登録していただくことも大切ではないかと。今後に期待したい。</p>	2. 学力アップ土曜学習事業 →令和8年度も実施の予定である。指導者4名体制で、参加者の満足度を上げるには12～16名が適正数であると考えている。支援者がボランティアであること、ALTの勤務時間外となるため、年間をおとした取組の実現は難しいのが現状である。
(1) 確かな学力の育成 II. 教育課題に対応する教育の推進	4. 外国語指導助手活動事業	継続	英検1BAリーディング・リスニングテストの総合スコア→英検4級合格レベル以上	<p>・英語授業の強化と国際理解を深める授業の補助を行う。</p> <p>・外国語指導助手を小中学校に各1名ずつ配置。</p> <p>小学校ALTは、月1回各園での英語活動を実施。また、授業がない曜日には中学校ALTと連携をとり、中学校の授業もサポートしている。</p> <p>中学校ALTは、生徒の実態をもとに有効な教材を開発するなど高い意欲と責任感をもって指導に当たっている。</p>	<p>【成果】 ・令和7年度英語教育実施状況調査の結果、英検3級レベルに達している生徒は中学3年生で63.8%（県は未集計）である。※参考R6は県52.5%</p> <p>・中学2年生の2技能（リーディング・リスニング）型で4級合格レベル以上は59%である。※10月実施結果</p> <p>・2名とも、担当教員との連携を図りながらよりよい授業づくりと児童生徒の学力向上に大きく貢献している。</p> <p>・2名とも教職員のみならず、児童生徒との関係も優良。</p> <p>・中学校ALTの英語弁論大会に向けた熱心な指導により、生徒は自信をもって大会に参加するとともに文化祭でも発表した。</p> <p>【課題】 ・ALTとの新たな取り組みについて引き続き検討していく。</p>	B	B	B	<p>◎英語を苦手としている生徒へのサポートをより手厚くしていただき、全体のレベルアップを目指していただきたい。</p> <p>◎授業以外に自由にALTと会話を楽しむ時間を作ることは難しいだろうか？</p> <p>★小学校ALTは、月1回各園での英語活動を実施している点は高く評価できる。学年が低いほど吸収力も高いと聞いている。遊びを通して、子ども達の英語教育の充実を期待したい。</p> <p>★重点事業でも述べたとおり。いろいろな経験をさせながら英語力の向上を図りたい。</p>	4. 外国語指導助手活動事業 一週1回程度、昼休憩の10分間だけ時間を設定するなど、学校状況に応じた取組が可能かどうかALT及び学校へ提案することとした。

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

（1）未来を拓く「生きる力」を育てる「みささ教育」の実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(1) 確かな学力の育成 III. 特別な教育的支援の充実	5. 学校運営支援員配置事業	継続	特別支援教育支援員に対する研修機会の複数回提供 就学前訪問・要請に応じた訪問及び指導助言 →各園年3回	教員の指導力向上や各種教育の理解のための指導助言及び研修会実施のコーディネート、さらには就学支援に係る連絡調整等を行うため配置する。 ・特別支援教育に関する研修 年3回 ・各園就学前訪問等 各園3回以上 ・支援会議、移行支援会議等への参加	【成果】 ・5月からの配置。特別支援教育支援員研修、就学支援連絡会等の連絡調整、内容検討等を指導主事と連携して滞りなく実施できた。 ・特別支援教育の専門的知識が豊富であり、適切な指導助言を行い、スムーズな就学支援を行うことができた。  【課題】 ・特になし。	A				
	6. 通級指導教室事業	継続	小学校教室運営と中学校巡回指導の年間を通じた適切な環境維持	通級指導教室の適切な運営のための指導及び助言を行う。また、通級指導教室利用を検討する児童生徒について、在籍学級における状況を把握するための訪問を行う。 ・通級指導教室担当者会 年6回 ・学校訪問 随時	【成果】 ・定期的な通級指導教室担当者会により、指導目標を確認し、指導内容や方法等について指導助言を行うことができた。  【課題】 ・引き続き、適切な目標設定及び本人保護者と退級の見通しを共有する必要性について指導を行うこととする。	A	A			
	7. 特別支援教育事業	継続	特別支援教育に関する研修会の開催 特別支援学級及び特別支援教育主任訪問 一年3回以上	支援が必要な児童生徒をサポートするための支援員を配置し、学習時間の困り感に対応するとともに、学習意欲の向上のために個に応じた支援を行う。 支援員を配置計画に沿って配置 ・小学校：特別支援教育支援員3名 ・中学校：特別支援教育支援員1名 ・研修 年2回 ・特別支援学級訪問 随時 ・特別支援教育主任訪問 年2回	【成果】 ・支援員の役割、担任との連携、児童生徒の実態把握の視点等についての研修を実施できた。支援員としての困り感に応じた助言も行うことができた。 ・小中学校とも校内支援委員会の定期開催だけでなく、必要に応じて臨時に開催するなど児童生徒の状況に合わせて柔軟に対応できている。 ・主任訪問は2回であるが、気になる児童生徒についての情報は指導主事及び学校運営支援員と共有できている。  【課題】 ・昨年度に比べると情報共有の必要性についての意識が高まり、時間を見つけて支援について確認されてきたが、今後も引き続き促していくこととする。	A		A	★支援が必要な生徒が増えている。グレーゾーンな児童もあると認識している。今後、指導員の負担が多くなることが懸念されるが、保護者の安心のために情報をしっかりと共有して頂き、活動に支障が出ないことを期待する。	7. 特別支援教育事業 →情報共有については、引き続き促していく。

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

（1）未来を拓く「生きる力」を育てる「みささ教育」の実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(2) 豊かな心の醸成 I. 豊かな心の育成	10. いじめ、不登校対策事業	継続	心の状況調査 →各学年2回 調査実施後の個別教育相談 →年1回以上	児童生徒一人ひとりの学校生活における心の状況を把握し、いじめや不登校の未然防止に努めた。 ・ i-check調査実施（小学校年2回） ・ EdvPath調査実施（中学校年複数回） ・ 個別の教育相談 学期に1回以上	【成果】 ・ 小学校においては、さまざまな事案に対する校内体制が整っており、スピード感のある対応ができています。 ・ 各調査及び、複数回のいじめに関するアンケート調査と個別の教育相談が適切に実施され、生徒指導上の問題の早期発見、早期対応につながった。 ・ アンケート調査からわかった家庭の状況について、保護者へ指導助言ができたケースもあった。  【課題】 ・ 年度が替わっても、いじめ撲滅宣言について全職員が把握して1学期の学習に取り組むよう、毎年、年度始めの主任者会で確認することとする。	A			★どの学校でも抱える大きな課題であるが、詳細な分析による丁寧で適切な対応をお願いしたい。 ★保育園でもスムーズな小学校への移行を目指している。5歳児健診の結果分析などを行っているが足りないところがあれば研究したい。	10. いじめ、不登校対策事業 →チーム学校としての取組推進、アセスメントに基づく支援については継続して指導していく。
	11. 不登校対策支援員配置事業	継続	中学校不登校出現率 →前年度以下	不登校生徒、不登校傾向の生徒の登校を促すための家庭訪問、迎え等の支援。 別室登校の生徒に対する学習支援、相談対応等。 ・ 支援員配置1名  不登校児童生徒数 R元 19人 R2 15人 R3 15人 R4 10人 R5 14人 R6 16人 R7 20人	【成果】 ・ 小学校不登校児童は9人（R6は4人）、中学校不登校生徒は11人（R6は12人）であり、小学校で増加した。 ・ 中学校においては、教室に入れないがあさひ教室では過ごすごができる生徒があり、自分のペースで登校し、学習・生活ができています。 ・ 支援員があさひ教室に登校する生徒との良好な関係を築き、生徒も安心して登校できています。  【課題】 ・ あさひ教室に登校する生徒とじっくり話をする機会を担当がもつことができにくい面を支援員がフォローしているため、担任と支援員の連携を大切に生徒支援を行っていくようにしたい。	C	B	B	◎児童や生徒それぞれが、ちよつと学校に行ってみようかと思ったときに、その子なりの安心できるスペース（居場所）やその子のすべてを受け入れてくれる存在があると思えるような働きかけを進めて欲しい。 ◎クラスには入れなくても、あさひ教室への登校が出来ている状況が続けられるよう、引き続き安心して過ごせる環境と支援員の確保をお願いしたい。 ◎中学校のあさひ教室の存在は大きいと思います。しかし運営について、支援の先生に大きな負担がかかっている状況にならないよう、担当教員、教科担任、担任等よく連携して学校生活に意欲が出るようなかわりになるよう取り組みを期待する。  ★不登校に対する概念や考え方が大きく変わってきている。児童数が減っているにもかかわらず、令和7年度20名は過去最大人数。学童クラブもあるが、まちづくりセンター内に「居場所づくり（フリースクールなど）」が民間委託でできないだろうか。今後に期待したい。 ★リモート授業が可能になるとともに、個人の多様性が尊重される社会になり、不登校の児童生徒を単純に人数で多い、少ないと判断できない時代になりつつあると感じる。	11. 不登校対策支援員配置事業 →令和8年度は小学校に生徒指導加配があったので、校長、加配教諭と生徒指導主事を中心として組織的に取組を進めることとした。 →中学校あさひ教室の運営については、学校に意見を提供する。
	12. 心の教室相談員設置事業	継続	心の教室利用者数 →月平均20人以上	生徒が抱えている悩みやストレスなどを軽減するため、心の教室を設置し、いじめや不登校を未然に防止する。 心の教育相談員を中学校に配置。 利用者数 422人/年 相談者数 5人/年 開室 108日/年	【成果】 ・ 月平均で35人以上の利用があり、生徒にとって安心して過ごせる居場所となっている。  【課題】 ・ 特になし	A			★ガス抜きの場所として、今後も必要。	
(3) 健やかな体の育成 II. 健康教育の推進	13. 命を大切にする学習事業	継続	授業実施回数 →各学年2回以上	専門家が小中学校を訪問。学習をとおして生命に対する畏敬の念や成長の喜びを感じるとともに、命について学び考える機会とした。  助産師を招へい ・ 小学校2回（2年生、4年生） ・ 中学校1回（3年生）	【成果】 ・ 小学校では、命の誕生や二次性徴について経験と照らして考えたり、自分の成長を受け止め、自己肯定感を高めたりする機会となった。 ・ 中学校では、生命誕生、LGBTQ、思春期の体の変化等幅広い内容の学習を行い、確かな知識を身に付け、生命尊重の精神を高めることにつながった。  【課題】 ・ 特になし	B	B	B	◎目標値として各学年2回以上とあり、対象学年が限られているようだが、各校全ての学年で、学年に合った学習がされても良いと感じる。命の大切さを色々な角度から繰り返し伝えていただきたい。  ★以前、保育園と連携し、未満児や1歳くらいの乳児を抱っこして、「命」を肌で感じさせる事業があった。今後に期待したい。 ★保護者も一緒に受けられる機会があるとういなど思う。 ★学習指導要領に則った指導内容で進めることが大切。	13. 命を大切にする学習事業 →謝金が伴う学習についての目標値であり、小中学校とも学年の年間指導計画に基づく学習は実施されている。

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

（1）未来を拓く「生きる力」を育てる「みささ教育」の実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(5)豊かに関わる力の育成 II.多様な交流活動の充実とコミュニケーション能力の向上	16.小学校相互交流事業	継続	オンラインによる学校間交流の実施 →年2回以上	本町と友好都市盟約を結ぶ滋賀県多賀町の小学校2校と、オンライン交流を実施した。 【時期】 2学期及び3学期中 計2回 【対象学年】 三朝小、多賀小 3年生全員 大滝小 3年生以上児童 【交流内容】 クイズ形式による各学校の紹介 地域学習の成果発表	【成果】 ・交流3年目となる今年度も計画的にオンラインによる授業交流を実施することができ、持続的な交流となっている。 ・今後の派遣交流について両町事務局間で協議し、令和7年度の準備期間を経て令和8年度から派遣交流を実施する方向となっていたが、本町において派遣交流の必要性が認められず、オンライン交流のみ継続していくこととなった。  【課題】 ・派遣交流の実現が見送られたことから、オンライン交流のさらなる充実を図っていく。	A			★できれば、城陽市と同じように交流が実現できればと感じる。今後に期待したい。	
	17.大人の背中運動	継続	子どもよりも大人が相手の目を見て気持ち良いあいさつをすることの習慣化に向けた呼び掛けの徹底	あいさつ、美化、整理整頓など基本的な生活習慣を身に付けさせ、豊かな人間関係を育むことに努めた。 各学期始業式から5日間、あいさつ運動を実施。	【成果】 ・地域の協力を得ながら、毎学期始めのあいさつ運動を実施できた。 ・中学校は生徒会によるあいさつ運動の継続、小学校は独自にあいさつマスターの取組を始めた。学校が一体となって習慣化に向けて取組を継続している。 ・美化活動は教職員も一緒に取り組むことを継続しており、また、中学校では黙祷の取組で環境整備に努めている。  【課題】 ・みささ子ども・若者育成会と連携し、「みささ版あいさつ運動」スローガンをういて学校、保護者、地域へ周知していくこととした。	B	A	A	◎大人の背中運動についての、町民への周知が足りないように感じる。どのような場所でのような活動がされているのか、その様子をもっと町民へ伝えていくことも必要だと思う。  ★挨拶運動が「期間限定のイベント」や「形式的な活動」になると、子どもはすぐに本質を見抜く。先生自身の挨拶の質や一貫性がバラバラだと、説得力も弱くなる。 挨拶をして、笑顔で返ってくる体験を増やすことに期待したい。 ★「あいさつをしましょう」と繰り返し伝え続けることも大切だが、「なぜあいさつが大切なのか」を大人がこどもに伝えられる環境を作りたい。	17. 大人の背中運動 →みささ子ども・若者育成会と連携し、「みささ版あいさつ運動」スローガンをういて学校、保護者、地域へ周知できるよう取り組みたい。
	18.三朝町・城陽市文化スポーツ交流事業	継続	参加者数 →上限の70%以上  参加児童の交流満足度 →70%	姉妹都市盟約(H24～)を締結する京都府城陽市と、両市町の児童を対象にスポーツ活動・文化活動を通じて相互に体験交流学習を行う事業。 今年度は三朝町開催の年であった。	【成果】 ・参加者募集に当たっては、三朝小学校に出向き、城陽市との関わりについて説明しながらプレゼントを行い、定員20名を大きく超える33名からの応募があった。 ・プランナールみささ、旧三朝小学校に1泊ずつ宿泊しながら、夜の温泉街散策や三徳山登山、鳥取県立美術館見学など、近年の猛暑に対応しつつ“三朝らしさ”を組み込んだ内容とした。 ・参加児童（城陽市児童を含む）のアンケートにおける満足度は98%だった。 ・本町児童及び保護者にとって、城陽市とのつながりが再確認される有益な機会となった。  【課題】 ・引き続き、参加児童やスタッフの健康・安全面を考え、近年の猛暑に応じた活動内容とする必要がある。	A			★キャンプが、無くなったことは非常に残念であるが、暑い時期なので安全を考えたことというのは理解ができる。多くの児童が交流できる環境を整えていただくことに期待したい。 ★毎年「楽しかった」という感想を耳にする。気候や鳥獣の関係で山の中での活動が難しくなってきたが、自然の中で思い切り遊ぶことを子どものうちに体験してほしい。	18. 三朝町・城陽市文化スポーツ交流事業 →三朝町及び城陽市いずれの場所で交流するにしても、それぞれの地域の特性を活かした体験活動を取り入れつつ、多くの児童にとって参加意欲が湧く内容となるよう努めている。

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

(2) ふるさとを学び・愛する「みささ人（びと）」の育成

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(4) ふるさと愛の醸成 I. ふるさとを愛する教育の推進	19. 創意と特色ある学校づくり推進事業	継続	各校で独自の特色ある学習の実施	各学校ごとに創意工夫した事業に取り組む、特色ある学校づくりと児童生徒におけるふるさと愛の醸成に努めた（補助事業）。 小：クラブ活動（生け花） ふるさとキャリア教育 CMパンフレット作成 バイオリン美術館出前講座等 中：映像制作（外部講師招へい）	【成果】 ・小学校は昨年度に続きふるさとキャリア教育の一環として、5年生がCM及びパンフレットを作成した。 ・中学校においては1、2年生が県立美術館紹介動画制作、3年生が卒業記念動画制作で、外部講師を有効に活用した。（3年生の人権動画制作は講師の都合で今年度の実施なし）  【課題】 ・学校ごとに創意工夫して取り組むことができるための予算であることから、まずはそれぞれの学校のやりたいことを応援したい。そのうえで、連携についての可能性を探っていきたい。	B			◎継続的な取り組みを期待する。  ★CMで作成する動画撮影は、もう少し多くの人数で撮影したらどうか、同じ角度からではなく、色々な角度から撮影した方が、もっと素晴らしいものになる気がした。	19. 創意と特色ある学校づくり推進事業 →委員の意見を学校に提供する。
	20. 総合的学習事業	継続	各校で体験学習の実施	ふるさと三朝を知る学習、価値ある体験を通じ、主体的に学ぶ力や豊かに表現できる児童生徒を育成することに努めた。 【小学校】 3年生：湯けむり探検隊、竹田おこわを食べよう ほか 4年生：車いす体験、認知症について考えよう ほか 5年生：里山体験、米作り、三徳山登山、CMづくり ほか 【中学校】 1年生：三徳山登山、温泉街オリエンタリング 2年生：職業体験、三朝町PR動画づくり 3年生：企業訪問、中学生の未来を語る会	【成果】 ・学年に応じたふるさとキャリア教育、総合的な学習の時間における体験的な活動を実施し、体験を通して学んだことや気づきをまとめたり、発表したり、発信したりと各校で工夫した取り組みを継続できた。 ・地域や役場職員、鳥取県にゆかりのある方等の協力、サポートもあり、充実した学習が進められた。  【課題】 ・特になし。	A		◎中学校で全学年が実施しているように、小学校でも全学年が実施出来れば尚良い。大きなことではなくても、身近なところでふるさとの良さを実感できるような学習は、一生心に残るものになると思う。  ★色々な体験を通して、三朝町の素晴らしさを心に刻んでほしい。素晴らしい事業だと感じる。 ★中学校に卒業生が来訪し、高校の様子をスピーチしてくれる取り組みがとても良いと思う。身近なロールモデルを参考に、自分の進路を真剣に考えるきっかけになる。	20. 総合的学習事業 →小学校低学年は、生活科の学習で学校周辺や地域に出かける体験的な学習を実施している。6年生については、年間計画の見直しや工夫を提案してみることにしたい。	
	21. みささ町かがやく子どもフェスティバル開催事業	継続	来場者数 →500人  事業参画団体 →10団体	町内の子どもたちの活動や取り組みの成果を発信するとともに、子どもたちと地域の大人たちが関わる機会を創出することを目的とし、今回のテーマを「大人も子どもと一緒に体験」と位置付け、事業計画を作成。今年度も多くの団体等に協力いただき、子どもたちにさまざまな体験の場を提供した。 【来場者数約400名、参画団体19団体】 中学生ボランティア人数 4名 【主な行事】 (1) お仕事体験 (2) ステージイベント (3) 体験発表 (4) 作品展示 (5) 働くクルマコーナー	【成果】 ・昨年に引き続き「お仕事体験」を開催した。三朝町商工会の協力もあって9ブースの出展となり、開場からすぐに来場者でにぎわった。未就学児から中学生、その保護者まで皆さんが楽しみながら真剣にお仕事体験に取り組む姿が見られた。 ・鳥取短期大学にステージパフォーマンスや食育ブースを実施いただき、同大学とのつながりも強固になっている。 ・インフルエンザの流行もあり、来場者数は約400名となった。  【課題】 ・鳥取短期大学に続き、高校生の事業参画を図り、子どもから大人まで多世代が交流する事業とした。 ・約40名の中学生ボランティアに協力いただく予定であったが、インフルエンザの大流行により、4名のボランティアとなった。ボランティアに依存しない運営体制の構築が必要。	A		◎前年好評だったブースの継続とともに、その年の新たな目玉を企画するのも良いと思う。多くの子どもたちの興味をひくような事業として、今後も継続していただきたい。 ◎毎年しづつ内容を見直し、魅力的はイベントとなるよう工夫されている。12月の第2日曜日は子どもフェスティバルという認識が定着してきた。乳幼児期の子どもと保護者の参加は増えたが、小学生の参加が少なくなってきたように感じる。早い段階から、ステージイベントを充実させていく仕掛けができないだろうか？  ★歴史のある「みささ町かがやく子どもフェスティバル」。子どもの人数も減少し、さまざまな体験ができる良い事業。ただ、参加するだけでなく、子ども達が主役で企画、運営ができるのもっと素晴らしい事業が展開できるのではないだろうか。「こどもまんなか社会」の実現をめざしてほしい。	21. みささ町かがやく子どもフェスティバル開催事業 →毎年の事業として定着してきた一方で、子どもたちの参加を促す工夫であったり、子どもたちが主役となるフェスティバルとなるよう、引き続き改善策を模索していく。	

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

(2) ふるさとを学び・愛する「みささ人(びと)」の育成

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(4) ふるさと愛の醸成 II. ふるさとに触れる機会の充実	22. 地域が育てる子ども総合対策事業	継続	あおぞら体験塾参加者数→30人/回 体験塾に参加して楽しかったと回答した児童の割合→70%	・野外活動を中心とした体験活動を通じて「やさしく」「たくましい」三朝の子どもを育成するとともに、子どもの健全育成、親子・地域のつながりを創出かつ向上させることを目的に開催。 ・事業の企画・運営をNPO法人里山地域研究会に事業委託することで、子どもにとって地域の大人と深く交流する機会が創出できる。 ・全12回開催（原則毎月第3土曜日に開催）	【成果】 ・今年度は対象者を小1～3年の30名を定員とし、参加申込児童数25名となった。 ・児童だけでなく、保護者も本事業に高い満足度を持っていただいている。 ・鳥取看護・短期大学学生のボランティアスタッフ参加は、受託者だけでなく参加学生からも満足度が高く、今後も募集を継続していきたい。 ※アンケートは年度末に実施。 【課題】 ・令和8年度からは、新しい人材を筆頭とした新体制での運営となるため、子どもたちの安全等を考慮しながらの事業実施を行っていく必要がある。	A	A	A	◎子ども達が自然体験をする場として今後も実施を継続してほしい。  ★NPO法人里山地域研究会に事業委託。民間の力がすごく良い形で事業展開されている。メンバーの高齢化が気になるところではあるが、長く続けられることを願う。 ★三朝の自然を生かしたとても良い取り組み。五感を使う活動はこどもの人間性を育ててくれると思う。 ★本物の体験から学ぶことは大きな財産になる。継続していただきたい。	
(5) 豊かに関わる力の育成 I. 社会参画意識の醸成	23. 子ども・若者の地域参画推進	継続	子ども・若者の地域参画企画の創出→2回以上 中高生・大学生のボランティア活動→延べ100人以上	【中学生ボランティア実績】 ・3事業、延べ50人 ・事業内訳 ①みささ子ども・若者育成会 1事業、延べ9人 ②三朝町体育協会 1事業、延べ8人 ③子どもフェスティバル 33人(※実参加数4人) 【鳥取看護・短大学生ボランティア実績】 ・9事業、延べ46人 ・事業内訳 ①みささ青空体験塾 8事業、延べ24人 ②子どもフェスティバル 22人	【成果】 ・令和7年度目標値をほぼ達成し、延べ12回の地域参画機会を通じて中学生や看護・短大生延べ96人が参加した。 ・みささ子ども若者育成会によるeスポーツ交流事業や子どもフェスティバルで中学生が幅広く活躍し、看護・短大生も青空体験塾や子どもフェスティバルでのステージ出演、ブース出展など多様な場面で積極的な参加を得ることができた。 【課題】 ・高校生に対する情報発信方法が大きな課題である。中学校、大学は学校単位で依頼可能だが、高校は町外に複数所在していることもあり、効果的な情報発信の仕組みが構築できていない。 ・中高生ボランティアサークルの設立には至っていない。小学校から中学、高校、大学(短大)と一貫した自走可能な学生ボランティア活動体の設立を目指す。	B	B	B	◎情報発信だけでは、サークル設立は無理だと考える。高校生のボランティア活動については、まず生徒のリーダーの育成と専任の社会指導主事がいて、いつでも生徒が相談できる仕組みがなければ不可能だと思う。 ◎高校生への情報発信不足について、中学校卒業時に何か出来ないか。SNS等を活用するなど、世代に合った情報発信が必要ではないか。 ◎人権の行事や国際交流に場で高校生がボランティアとしてかわかる姿が見られた。身近なところから少しずつ人数を増やしていくことが大事。また、中学生はほとんどの生徒が毎年何かのボランティアを経験して卒業している。この実績を高校生になっても生かせる体制を作りたい。そのためには、高校との情報交換を年度初めに実施することも有効手段だと思う。  ★従来の三朝町民会議が有名無実化し、現在の「子ども若者育成会」が結成された。「子ども若者育成会」は、実行部隊ではなく、これからの三朝町の青少年育成のあり方を企画する頭脳部隊である。 子ども達にさまざまな形で出番を作り、色々な場所でボランティア活動の場を作り上げることができるか、全ての子ども達に活躍する場を提供する事が目的である。 今後は、子ども達の活躍する場所を行政・地域が提供できるよう仕掛けていかなければならない。 ★町の教育行政を語る時、小中が対象になりがらで、高校生はあまり対象にならないケースが多い。高校生も三朝町の子ども(若者)として活躍の機会を作ってあげたい。その視点では、この取り組みは素晴らしいものである。 ★三朝の陣所の開催が来年はできないかもしれないと大きく報道されている。この課題解決に若者の意見を取り入れること(運営に参画させる)もよいのではないかと考える。	23. 子ども・若者の地域参画推進 →高校生サークルの設立を目指しながら、高校生に対する効果的な情報発信の仕組みを構築するなど、より一層の働きかけを実施する。 →鳥取看護・短大、鳥取大学の学生の活動を町内の中高生に身近に感じてもらい、小学校から中学、高校、大学(短大)と一貫した自走可能な学生ボランティア活動体の設立を目指す。

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

(3) 安心・安全な教育環境整備と地域と共に歩む学校づくり

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(7) 教育環境の充実 I. 学校教育における質の向上	25. 教職員指導力向上研修事業	継続	教職員集合研修機会 の提供 一年3回以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校合同研修会（1回） 講師：高旗浩志教授（岡山大学教師教育開発センター）</li> <li>三朝小学校校内研修会（2回） 講師：樺山敏郎教授（大妻女子大学） ※中学校教員も参加</li> <li>中学校校内授業研究会（2回） 指導助言：高旗浩志教授 ※小学校教員も参加</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校では継続して高旗先生の指導助言を受けており、定期的なフォローアップの機会となっている。</li> <li>中学校の全職員が小学校の授業を参観し、小学校でつけた力をさらに伸ばしていくための授業づくりについて意識を高める機会となった。</li> <li>指導力向上研修会では、小中学校の先生が混在した小グループで協議を行い、互いの教育を理解する貴重な時間となった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年度においては、小学校の全職員が中学校の授業を参観したうえで研究協議を行うことを検討したい。</li> </ul>	A	A	A	★教師の指導資質の向上を図る上で大切なのは研修である。高旗先生は、素晴らしい講師である。先生方はさらに学び資質の向上につなげてほしい。	
	26. 学校施設維持修繕事業	継続	小中学校緊急的維持修繕への対応	<p>小中学校施設の維持修繕を行い、安全で安心して学ぶことができる環境を整備した。</p> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校給食配膳室空調設置工事</li> <li>小学校体育館サッシ手動閉装置改修工事</li> <li>小学校駐車場案内誘導板設置業務</li> <li>旧東小学校石碑移設等工事</li> <li>中学校視聴覚室空調取替工事</li> <li>中学校井水配管設備修繕工事</li> <li>中学校玄関前街路灯修繕工事</li> <li>中学校体育館窓格子修繕工事</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>緊急的なものを含め、対応が必要な修繕工事等の全てを完了した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校施設は老朽化により修繕必要箇所は多数あるが、財源の関係上必要最低限の対応に留め、優先順位をつけて対応する。</li> </ul>	A				
(7) 教育環境の充実 II. 学校施設の整備充実	27. 小学校施設整備事業	継続	周辺工事の安心・安全な完成と円滑な供用開始	<p>昨年度から引き続き工事を進めてきた小学校駐車場が、7月末に完成を迎えた。</p> <p>また、小学校施設整備に係る全ての工事が終わったため、近隣世帯に対する工事損害事後調査を実施し、補償が必要な世帯の選定作業を実施した。</p> <p>加えて、新校舎建設から1年が経過したことから、施工業者によるかし調査を実施し、必要な修繕等を図ることとしている。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工期内に全ての工事について完成を迎えることができた。</li> <li>工事後の調査等についても計画通り進めることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工事損害事後調査により補償が必要と判断された世帯について、令和8年度に補償対応を行う。</li> <li>かし調査については2年次調査後に必要な修繕を実施する。</li> </ul>	A	A	A		
	28. 教科書改訂特別事業	継続	学習指導要領改訂及び特別支援学級への進級に伴う教師用教科書・指導書、デジタル教科書等の整備	<p>学校からの要望を受け、教師用教科書・指導書等の整備を適切に行った。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校の要望に沿った整備、予算の確保を行い、教員の指導環境を整えた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>	A				
	30. 調理センター施設管理事業	継続	施設の確実な点検の実施	<p>調理機器、殺菌水衛生管理システムに関しては定期的に点検を実施している。</p> <p>また、毎月害虫防除作業を実施し、衛生管理に努めている。機器等に不具合が出た場合は直ちに修繕を実施している。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電気立体炊飯器を更新した。また高圧ケーブルが破損する恐れがあったので交換した。その他、故障箇所を適宜修繕した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も機器等に不具合が出た場合は直ちに修繕し、安定した給食の提供に努める。</li> </ul>	A				

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

(3) 安心・安全な教育環境整備と地域と共に歩む学校づくり

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(7) 教育環境の充実 III. 児童生徒の通学支援	32. 高校生等遠距離通学費補助金事業	継続	補助対象生徒の制度利用率 →90%	各集落から役場までの通学費補助に加え、県が実施する高校生補助制度を活用し、定期券購入者（7,000円以上）への補助を行った。 補助制度利用率77.5% 制度利用者86人／対象者111人 ※対象者は入寮者及び他補助受給者除く	【成果】・申請者に対し、保護者負担の軽減を図ることができた。 【課題】・制度利用率が目標に達していないため、精度案内についてより周知できる形を検討する。	B	A	A	◎この事業については、高校生になってからの交通費負担に不安を感じている保護者が少なくないため、中学校在学中の早い段階で保護者への周知を図る必要性を感じる。  ★申請制にするべきなのか、疑問がある。対象者がわかっているのであれば、違う方法も考えられると感じる。今後に期待したい。	32. 高校生等遠距離通学費補助金事業 →各家庭へのチラシ、及びマチコミなどを利用してお知らせをし、当該補助金制度について周知しており、継続することとしたい。
	33. 小中学校遠距離通学費補助金事業	継続	補助対象児童生徒の制度利用率 →100%	小学校は定期券の現物給付と最寄りのバス停まで距離がある児童へ補助。 中学校は2km以上の距離を通学する全生徒に補助。	【成果】・遠距離通学児童生徒の全保護者における経済的負担を軽減した。 【課題】・特になし。	A				
	34. 就学援助事業	継続	対象者への必要な援助の実施	就学援助対象者 小学校 38名 中学校 20名	【成果】・経済的困窮世帯に対し、学用品費、給食費等の支援を行い就学の支援を行った。 【課題】・支援が必要な世帯への確実な制度周知。	A				

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

（4）生涯スポーツ活動の普及と健康な心と体づくりの推進

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(2) 豊かな心の醸成 II. 情操教育の推進	35. 中学校運動部活動外部指導者派遣事業	継続	必要な外部指導者等の配置 →外部指導者3人、部活動指導員5人	部活動の充実・発展を図るため、外部指導者3名及び部活動指導員5名を派遣した。 【外部指導者】 ・合唱部 1名 指導回数21回 計60時間 ・野球部 1名 指導回数33回 計76時間 ・バスケットボール部 1名 指導回数53回 計76時間 【部活動指導員】 ・卓球部 1名 指導回数144回 計253.5時間 ・バスケットボール部 1名 指導回数78回 計127時間 ・バレーボール部 1名 指導回数55回 計84.5時間 ・野球部 1名 指導回数109回 計208時間 ・ソフトテニス部 1名 指導回数85回 計219時間 ※上記は3月分見込を含む回数、時間 町部活動指導者研修会 年1回	【成果】 ・バレーボール部の外部指導者を部活動指導員に任命し、新たに合唱部に外部指導者1名を配置した。合唱部は中国大会にも出場した。 ・部活動指導員は5名配置し、専門性を生かした部活動指導を行うことができた。 【課題】 ・令和8年度も外部指導者及び部活動指導員の確保に努めていく。	A	A	A	◎部活動地域移行の方向性は今後どうなっていくのか各県レベルではなく、国の方針をはっきりさせていかなければ現場は困ったままになる。国の方針がはっきりしないのであれば、引き続き外部指導者や外部指導員の確保に努めて欲しい。 ◎外部指導者の確保は大変だと思いますが、今後も引き続き努力してほしい。  ★外部指導者及び部活動指導員の確保を継続して実施していただくことを期待する。 ★中学生は思春期の生徒も多く、外部指導者は内面的な対応力も求められると思う。間口を広げながら、かつ慎重に、あらゆる可能性を探っていく必要があると感じる。 ★このことは、国の計画が示された時から予想されていたことである。三朝町だけの取り組みなら部の数を減らし絞って運営することが必要。三朝町単独の取り組みは難しい。中部地区1市4町の取り組みなど行政枠を超えた対応が急がれる。 7年後の国スポ鳥取大会。三朝町からも選手を出したいものである。その夢に向けた施策もみんなで考えたい。	35. 中学校運動部活動外部指導者派遣事業 →令和8年度も外部指導者及び部活動指導員の確保に努めていく。 →地域移行検討委員会の答申（R8年度中予定）を受けて今後の取組を進めていくこととなる。
	37. 三朝町スポーツ少年団補助金事業	継続	団員数 →130人 単位団指導者研修会、支援の実施	令和7年度スポーツ少年団 団員数 121名（R6年度 137名） 本補助金では主に指導者に係る費用（年間謝金、保険料、全国スポーツ少年団登録費用、指導者資格講習会費用等）や単位団の育成強化費を支援している。	【成果】 ・団員数は昨年度と比較して16名の減となったものの、各単位団とも活発に活動を展開している。 【課題】 ・部活動の地域移行を見据えると、今後、中学生団員の増加が想定される。この状況も踏まえ、子どもたちが望ましい環境でスポーツができるよう指導者の確保や支援を継続していく必要がある。	A			◎スポ少の指導者が、中学生の部活動に引き継ぐ機会を増やす必要があるのでは？ ◎中学生も含めた受け皿作りはどの程度進んでいるのでしょうか？実際のこととなるとハードルが高そうですが、外部指導者の確保と併せて検討してほしい。	37. 三朝町スポーツ少年団補助金事業 →中学生団員の受入れが可能な単位団から、中学生の入団募集実施に向けて準備を進める（開始目標：令和9年度） →指導者及び単位団の育成強化対策を検討する（指導者謝金及び単位団育成強化費見直し等）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

（4）生涯スポーツ活動の普及と健康な心と体づくりの推進

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(3) 健やかな体の育成 I. 体力向上の推進	38. スポーツ推進委員活動事業	継続	スポーツ推進委員主催事業の企画・実施（スポーツ教室など）	本町における生涯スポーツの普及推進を図るとともに、スポーツ推進委員の資質向上のため、各種研修に委員を派遣した。 （主な派遣実績） 町スポ少結団式、地域協議会行事、町スポーツレクリエーション祭	【成果】 ・モチベーションを高く維持した状態で活動が展開されており、中部地区市町のスポーツ推進委員からも注目されている。 ・活動紹介及び委員派遣周知のパンフレットをスポーツ推進委員会が作成し、全戸配布するなど広報活動も併せて行っている。  【課題】 ・引き続き、スポーツ推進委員の活動や活用について周知に努める。	A			◎総合型地域スポーツクラブの推進を町全体で取り組めば、スポーツ推進委員が積極的に活動できる。（身近なクラブで、北条スポーツクラブが参考になる）  ★三朝町が、令和10年度に温泉施設を建設し「健康のまちづくり」を推進する予定。スポーツ推進委員や体育協会の活動拠点施設を、新しく建設する「温泉施設内」に設置できないだろうか。  ★スポ推の方も人員確保が難しくなってきたりかもしれないが、新たな人材の呼び込みも兼ね、引き続き幅の広い活躍を期待する。	38. スポーツ推進委員活動事業 →スポーツ推進委員が主体となった町民のスポーツ参加機会の創出に努める。
	39. 三朝町体育協会委託金事業	継続	各種スポーツ大会等参加者数 →900人	・体育協会主催行事延べ参加者数（見込）690人（R6実績 820人） ・ヨガ教室延べ参加者数（見込）延べ270人（R6実績 延べ210人） ・郡スポレク祭参加者数 延べ293人（R6実績 延べ289人） ・中部駅伝大会参加者数 16人（R6実績 8人）  合計 延べ1,269人（R6実績 延べ1,327人）	【成果】 ・主催行事は、前年から参加者数が減少しているが、主な要因としては秋季グラウンドゴルフ大会が中止となったこと、及び町スポレク祭の参加者数が大きく減少したことによる。  【課題】 ・町スポレク祭については、企画内容が近年ほぼ変わらないため、各競技部が部員を増やす仕組みづくりが必要である。 ・スポーツ団体の支援はもちろん「スポーツ機会の創出」「加盟のメリットや加盟しやすさ」という観点で組織のあり方について、引き続き検討したい。	A	A	◎会員としての登録者は600人～800人だが、事業費を使っている「ゴルフ」「ヨガ」「町民スポレク祭のモルック」等、会員ではないがプラス何百人が毎年参加している。 さらに参加者を増やすには、スマホやパソコンで施設予約が出来たり、空き情報がスマホやパソコンで見えるようにすることが有効だと思う。  ★三朝町が、令和10年度に温泉施設を建設し「健康のまちづくり」を推進する予定。スポーツ推進委員や体育協会の活動拠点施設を、新しく建設する「温泉施設内」に設置できないだろうか。	39. 三朝町体育協会委託金事業 →引き続き、町民のスポーツ参加機会の創出に努める。 →令和8年度から公共施設の予約システムが本格稼働するため、施設の空き情報がオンラインで確認可能となる。	
(3) 健やかな体の育成 II. 健康教育の推進	40. 食育推進事業	継続	県産地消費率 →95%以上  園小中の食育取組成果発表 →年1回  給食レシピ公開 →年6回以上	さまざまな経験をとおして「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活と食を通じた健康管理を実践することができる児童生徒の育成に努めた。 また、台湾やフランスとの交流にちなんだそれぞれの国の給食や、オリンピック・パラリンピックの開催にちなんだ世界各国の給食を提供した。 さらに、卒業をお祝いするデザートとして、三朝神倉大豆で作ったきな粉を使用したプリンを提供した。 ・地産地消費率 75.3% ・園小中の食育取組成果発表 年1回（文化ホール、みささ図書館掲示） ・給食レシピ公開 年12回（町報に掲載） ・三朝中学校PTA育成部による「おうちでクッキング」の取り組みとレシピ集の家庭配付 ・学校栄養教諭による給食時間の学級訪問 ・中学校給食委員会との活動	【成果】 （地産地消） ・生産者と積極的に連携を図り、地域の特産を生かした給食の提供と郷土愛を育てる支援を行った。 （食育指導） ・生産者を招いた交流給食は、今年度は悪天候のため実施できなかった。 ・学校栄養教諭が学校給食週間や毎月の食育の日献立を工夫しており、児童生徒が地元産のお米や特産品、季節や行事に関連する献立を食べることができ、食に対する関心を高めることにつながっている。 （成果発表） ・各園、小中学校の食育の取り組みを図書館にも展示し、多くの町民に取り組みを紹介することができた。  【課題】 （地産地消） ・三朝町学校給食グループの野菜生産量の減少や、業者が取り扱う鳥取県産野菜の減少により、地産地消費率も低下している。 ・生産者の高齢化により、今後の町産食材の調達難が懸念される。 ・地元住民や地元企業と連携を図り、郷土の食材利用を引き続き進めていく。	B	B	B	◎平成16年から続いている食育推進の取り組みだが、三朝町の食育キャラクター「バクバクおいしーなちゃん」「元気がでるぞーくん」をもっと活用してほしい。中学生の給食委員長が、町民の方にもっと給食のことを知ってもらいたいと言っていた。食材を提供してくださる方にインタビューして紹介したり、町報に掲載するなどの活動ができないか、生徒たちが積極的にかかわっていく場を提供できないか検討してほしい。  ★三朝町学校給食グループの野菜生産量の減少や、業者が取り扱う鳥取県産野菜の減少により、地産地消費率も低下していると聞いた。生産者の高齢化もあり、また、数量などのノルマもハードルになっている気がする。長期保存ができる野菜・味噌などを中心に仕入れる事も大事。特に米飯給食のお米は地産地消を続けていただきたい。 ★高齢化により・・・という理由で三朝町地産地消が危うい。町全体で対策を検討してほしい。	40. 食育推進事業 ◎三朝町の食育キャラクターについて →献立表や食育掲示板の掲示を通して、より活用していきたい。 ◎給食のおいしさを町民に伝えたいことについて →まずは給食委員長と話し、委員会活動を通して、給食のおいしさを伝えられる取り組みを行いたい。生産者さんだけでなく、調理を行う調理員さんにもスポットを当てることで給食の魅力、おいしさが伝わるようにしたい。 ◎地産地消について →地産の食材を使用していることについて、町民のみならずさらに知ってもらうことで、野菜を提供して下さる方を増やすことができないかなど、対策を考えていきたい。「三朝の給食はご飯がおいしい」という声を多く聞く。そのため、三朝町産のお米を使用することは継続していきたい。 また地産地消費率は年々低下傾向にあり、95%以上の目標値を達成するのは困難な状況となった為、目標値を令和7年度の県の平均値である75%以上に再設定したい。

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

(5) 生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(2) 豊かな心の醸成 I. 豊かな心の育成	41. 人権啓発講演会等事業	継続	人権講演会・講座等参加者満足度 →80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育講座（7月～10月）参加者167人・5回（前年164人・5回）※講座内容の理解度（ほぼ理解できたを含めて）95.3%</li> <li>第2回三朝町人権尊重のまちづくり集会（R7.11.23）参加者69人</li> <li>人権啓発番組 人権学級等に参加できない方の学習機会として三朝中学校作成の人権劇(25分)をケーブルテレビで放送（2月中の毎日3回）、併せて中部地区が合同で人権啓発DVDを作成し、教材として活用</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育講座 就業者も参加可能な開催時間とし、前年度のアンケート結果に基づいたテーマを設けたが、参加者数は前年度並みとなった。 一方で、9割ほどの参加者が新たな気付きがあったと回答。</li> <li>三朝町人権尊重のまちづくり集会 新たな取組として実施した「人権朗読」は、内容はもちろん、高校生が参加していたこともあり評価する声が多かった。</li> <li>人権啓発番組を放送し、町民が誰でも人権教育に触れられる機会を提供できた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育講座 興味を持ちやすいテーマの選定。 参加しやすい日程の設定。 小中学生、保護者向けの講座の設定</li> <li>三朝町人権尊重のまちづくり集会 参加者が少ない。</li> </ul>	B			<p>◎人権尊重のまちづくり集会は新たな試みの内容もあり、とてもよかったと思うが、残念ながら参加者が非常に少ない。各集落に動員を依頼する等参加者を増やす手立てが必要と思う。自発的な参加で人数を増やすことは難しいと思う。多くの方が集まるのが第一だと思う。</p> <p>★町民における人権意識もずいぶん高くなってきている。人権侵害などの事例もほとんど無くなってきているのではないかと。しかし、学び直しであるリカレント教育は続けていかねばならないと思う。</p> <p>★いろいろなアプローチをされ、町民が人権について学ばれているように感じる。</p>	41. 人権啓発講演会等事業 →人権尊重のまちづくり集会では、新たな取組である「人権朗読」について評価いただいた一方で、参加者が少なく、人権啓発としては効果が低い結果であったため、次年度は各集落の人権教育推進員をはじめとして、周知に努めることとしたい。
	42. 人権教育推進協議会委託金事業	継続	人権学習機会の創出 学習活動延べ参加者数 →800人	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権学級（9月～12月）36集落参加者211人</li> <li>人権出前講座（6団体）</li> <li>部落解放月間に伴う人権標語募集・表彰チラシ広報に活用 郡同和对策協議会の人権標語に応募</li> <li>人権啓発リボン・バッジの作成・着用（7月～8月） 町内事業所、保育所、小中学校、役場各職員等へ依頼</li> <li>大会派遣 第50回人権尊重を実現する鳥取県研究集会11名参加 第76回全国人権・同和教育研究大会2名参加</li> <li>広報誌 共に生きる 1月発行 笑顔と元気（人権協だより）3月発行</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権学級 ワークショップ形式に限らず、DVD形式、スライド形式及び映画（戒威）上映など、多様な方法で実施し、人権尊重の意識向上を図った。本年度は36集落で実施した（昨年度は16集落）。</li> <li>人権標語や作文を小中学生に作成してもらうことで、人権を考える機会を提供した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権学級 今年度未実施の集落には直接声かけを行い、本年度と来年度の2年間で全集落実施をめざすこととしている。 継続して取り組んでいくことが重要であり、他の集まる機会を活用した出前講座や人権啓発DVDなどの貸出、テレビやインターネットなど開催形態にこだわらない人権啓発の方法を推進する。</li> </ul>	B	B	<p>◎人権学級を開催した集落が増加したことについては、大変良いことだと思う。また、課題にもあがっているように、未実施だった集落へ直接声掛けをすることは効果的だと考える。同時に、集落担当者に他集落で開催した人権学級がどのような内容だったのかも伝え、自集落での開催につなげていただけるよう尽力していただきたい。</p> <p>★講義形式から、体験形式に変わりつつある。短い事例をグループで意見交換したり、ロールプレイ（言われた側・言う側の体験）を組み入れることも期待したい。</p> <p>★「他人にどう思われているか気になる」「自分に価値がないと感じる」という児童生徒が増えていくと聞く。「自分事」として考えられる身近なワードをテーマとして実施していくのも良いかもしれない。</p>	42. 人権教育推進協議会委託金事業 →人権学級については、集落合同実施も功を奏し実施集落数が増加したため、引き続き取り組むこととする。 →人権学級の内容については、時代に即したテーマを取り上げるよう留意する。	
	43. 人権教育推進員設置事業	継続	人権教育推進員のコーディネーターによる人権教育の実施（人権学級、人権出前講座等）	人権教育推進員を年間をとおして配置し、人権教育講座、人権学級など、中心となって積極的に教育推進を行った。	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育推進協議会の運営、人権教育講座や人権学級の企画・実践などに加え、人権出前講座などにも中心となって積極的に取り組んだ。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>継続して人権教育推進員を配置し、人権啓発活動の実施により町民が人権教育に触れる機会を積極的に提供していく。</li> </ul>	B				

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

(5) 生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(2) 豊かな心の醸成 II. 情操教育の推進	44. 移動図書館サービスの充実	継続	各園、子育て支援センター、各学童クラブ 計5か所 →月1回 各集落・事業所等25か所 →月1回	移動図書館 合計340回 集落13か所、施設・事業所10か所 月1回 計269回 保育所・支援センター3か所 月1回 計36回 東学童（三徳センター） 月1回 計12回 西学童（旧三朝小学校） 月2回 計23回	【成果】 ・移動図書館車の巡回について計画どおりに運行できた。 ・利用者からのリクエストにも応えることができています。 ・保育所等では貸出と併せて読み聞かせを行い、本に親しむ機会を提供できた。 ・西学童では月2回の実施を継続できた。  【課題】 ・高齢になって介護施設へ入所される方などがあり、集落巡回の利用者が段々と減少してきている。 ・病院の院内文庫がコロナ禍以降休止状態が続いている。	A			★年に数回でも、地域に拡大していただくと楽しいかもしれない。	44. 移動図書館サービスの充実 →移動図書館車を活用した事業を企画し、本に親しむ機会を増やす取り組みを実施する。
	45. 子どもたちの読書活動と学習活動を支援	継続	おはなし会（館内、各園、支援センター、西学童、バイオリン美術館等） →年60回 小中学校学習資料貸出 →3,500冊 中学校図書委員選書・配本 →年6回 子どもが楽しめる行事 →年2回	おはなし会 64回 ・保育所 22回 ・支援センター 7回 ・バイオリン美術館 12回 ・（館内）親子で楽しむおはなし会 10回 ・母子検診時読み聞かせ 9回・配本12回 ・学童読み聞かせ 4回 学習資料等貸出 ・小学校 752冊 ・中学校 393冊 中学校選書・配本 6回 子どもが楽しめる行事 ・みささ図書館へ行こう！キャンペーン（こどもの読書週間キャンペーン） 実施期間：4/23～5/11 ・開館35周年記念事業「絵本作家はたこうしろうさんワークショップ＆講演会」 7/6文化ホール、7/7小学校 実施 ・サイコロ図書館くじ 実施期間：7/16～8/31 ・東学童 読み聞かせと工作教室 7/25実施 ・夏休み親子工作教室 8/23実施 ・図書館へ行こうキャンペーン（主催：県立図書館 共催事業） 実施期間：10/1～12/24 ・子どもフェスティバル共催 図書館司書体験 12/14実施 ・新春企画「本の福袋」 絵本と児童書のセット作成 実施期間：1/4～1/9 ・百人一首かるたを楽しもう 1/17実施	【成果】 ・今年度は開館35周年記念事業として絵本作家のワークショップと講演会を実施し、親子が絵本や遊びに親しむ機会となった。小学校と連携し全校児童を対象に講演会を実施した。 ・おはなし会に手遊び等を取り入れ、内容が充実するよう職員が工夫をしている。 ・親子で楽しむおはなし会では、鳥取短期大学、看護大学の学生がボランティアとして参加した。 ・夏休み企画のサイコロくじで、昨年好評だったガチャガチャを使い、楽しみながら読書推進を図った。 ・小学校への貸出は学級文庫として利用している。 ・中学校図書館への図書貸出は、図書委員の生徒に選書してもらった。自分で選んだ本であるため、友達にも薦めたりと、良い効果を中学校図書館司書から聞いている。 ・子どもフェスティバルでは、図書館司書体験を行い、本探しとしおりづくり体験を行った。 ・年3回、図書館（町立・学校）担当者の連絡会を実施し連携を図っている。  【課題】 ・読み聞かせボランティアの発掘・育成を行い、読書活動を推進していく協力者を増やす。	A			★さまざまなイベントを開催し、図書館に来ていただく事は素晴らしい。今後も更に充実した運営に期待したい。	
	46. 乳幼児の読書に親しむきっかけづくり	継続	ブックスタート →年4回 ブックセカンド →10組 健診時のおはなし会 →年9回	ブックスタート 11組、4回 6か月健診を利用して絵本の楽しさ、重要性を親子に体験してもらう。 絵本等をプレゼントする。 ブックセカンド 10組（1歳誕生日前後） 民生児童委員の自宅訪問事業（顔合わせ）に協力。 好きな絵本2冊をプレゼントし、その後の図書館利用につなげる。 健診時おはなし会（2歳、5歳） 2歳のひのび 3回 5歳児健診 2回 健診時絵本配本 1歳6か月児 4回 3歳児 3回 その他 ・親子で楽しむおはなし会（4月～12月・3月） 第3日曜日午前10:30～ （読み聞かせボランティア協力）	【成果】 ・ブックスタート、ブックセカンドは幼児期に親子で図書館を利用する契機となっており、出生数が減少する中、着実な図書館利用につながっている。 ・館内で月1回実施している親子で楽しむおはなし会を毎月楽しみに来館される親子もあり、定着してきている。読み聞かせボランティアも継続的に協力があり、今年度はボランティアが1名増えた。 ・親子で楽しむおはなし会では、鳥看短大とのつながりが継続され、学生ボランティアの参加が定着しつつある。  【課題】 ・家庭での子どもへの絵本の読み聞かせに関し、継続して保護者への啓発が必要。 ・読み聞かせボランティアの人材発掘と育成。	A	A	A	★鳥取短期大学の学生ボランティアの活用は良いと思う。今後は、中学生や高校生ボランティアを育成してみたいらどうかと思う。 ★子ども若者育成会の「子どもの出番を増やそう」の基本方針にも合致すると考える。	46. 乳幼児の読書に親しむきっかけづくり →高校生（ヤングアダルト）が読んでみたいと思う様な本の選定を行うため、高校生による本の選書会を実施する。

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（70%～80%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（50%～70%）
ランクD	不十分（30%～50%）

(5) 生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
	47. 人と本の出会いの場づくり	継続	テーマ選書展示一般コーナー15回、児童書コーナー20回 各種教室の開催→年29回	<p>テーマ選書展示 49回 季節の話題・社会情勢等の中からテーマを選び、関連図書を期間限定で展示して利用者の資料利用への動機付けとする。 【児童向け】24回 春特集/入園・入学特集/子ども読書の日キャンペーン展示/こどもの日特集/母の日・父の日特集/しかけ絵本展示/冒険にだけよう特集/はたこうしろう作品/七夕/読書感想文・夏休み宿題/夏/戦争と平和/昔の道具/敬老の日/お月見/秋を探して/ハロウィン/クリスマス特集/冬/お正月・干支/節分/バレンタイン/ひな祭り/英語絵本 等 【一般向け】18回 追悼野綾子/自閉症啓発パネル展示に関する本/本屋大賞/日本遺産PR特集/トライワーク中学生オスメ/切り絵工作/芥川賞・直木賞(過去作)/男女共同参画啓発/フランス国際交流/戦後80年/自死予防/日本遺産/認知症予防/北方領土問題/フランス・台湾交流/おせち料理・年賀状/本屋大賞候補作品/版画 等 【県立協力貸出図書コーナー】年3回 【図書館職員オスメコーナー】6月末から随時入れ替えを行い実施 【YAコーナー】14歳からのシリーズ 【郷土資料】日本遺産関連図書コーナー 【点字・LLブック】入口すぐのところにコーナーを設置 各種教室 ・みささ英語村 月2回(第2・4土曜日)計24回 ・あみぐるみ教室 10/15, 11/13 その他 ・ブラインド・ブック・マーケット 10/29～11/9 ・新春企画「本の福袋」1/4～1/9</p>	<p>【成果】 ・月毎に展示を入れ替えて本の紹介ができた。 ・定期的に季節に合ったテーマの絵本を探しに来館される利用者が多くおられるため、定番の季節の展示を行いながら、保護者へ読んでもらいたい絵本などの紹介展示などを設定することができた。 ・今年度から職員オスメコーナーを設置。利用者が本を手取る機会が増えた。 ・図書館の資料を使ったものづくり教室は、あみぐるみ教室を実施。中学生から大人まで幅広い参加があった。</p> <p>【課題】 ・今後も定期的を実施して内容の充実を図るほか、展示に協力していただける機関を増やす。 ・利用者の興味を引くよう本の表紙が見える面出しをするなど、配架方法を工夫する。 ・英語村の参加者が固定化している。子どもや初心者への参加を促す工夫が必要である。</p>	A		◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	47. 人と本の出会いの場づくり →県内図書館ネットワークによる相互貸借の仕組みを広報誌等を活用するなどPRしていく。	
(3) 健やかな体の育成 II. 健康教育の推進	48. 家庭教育支援推進事業	継続	園、学校における子育て親育ち講座の開催数一園2回、小中学校各1回	<p>子育て期の保護者への学習機会の提供として、町内各園・学校において「子育て・親育ち講座」の開催を支援。 今年度は各園・校の実施はなかった。</p> <p>子育て12か条の推進のため、カレンダーを作成し、町内の保・小・中の世帯に配布した。</p>	<p>【成果】 ・子育て12か条の啓発ツールとしてカレンダーを作成、配布した。カレンダーには学校の行事予定等を記載し保護者の方からも好評を得ており、12か条を日常的に意識づける良いツールとなっている。</p> <p>【課題】 ・「子育て・親育ち講座」について、全ての園、学校での講座の開催を目指すとともに、場合によっては合同開催のように、より保護者が参加しやすい開催方法を検討する。</p>	C	C	B	◎講座の実施がなかったのは大変残念。園児、小中学生を持つ多くの親それぞれに、何かしらの悩みや困り感を感じることはあると思うので、それに寄り添った形で次年度は是非講座が開催されることを期待する。 ◎カレンダーは、子育て12か条と共に、学校の年間行事予定も記載されていて、保護者に大変好評だった。 ◎子育て12か条カレンダーの配布や実践の取りまとめの活動は、保護者には非常に好評で継続して取り組んでほしいと思う。しかし、子育て、親育ち講座は園学校とも開催ができていない。PTA活動が低迷してきた表れだろうか。単独が難しいなら合同で開催するなどの工夫で学習機会を確保してほしい。 ★「子育て12か条」の啓発ツールとしてカレンダーを作成、配布した事は評価に値する。町民への「子育て12か条」の浸透は、まだまだのような気がする。どう、周知していくのか。「子育て・親育ち講座」の開催の実施がなかったのは残念。今後に期待したい。 ★子育て12か条カレンダーの配布や実践の取りまとめの活動など一朝一夕には広まらないものこの取り組みは素晴らしいと思う。継続をお願いする。	48. 家庭教育支援推進事業 →保護者が学習する機会を確保するため、子育て・親育ち講座の開催に向けて、時期や時間も含めて課題を整理し、保護者が参加しやすい方法を模索する。

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（70%～80%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（50%～70%）
ランクD	不十分（30%～50%）

（5）生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現

みささ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(4) ふるさと愛の醸成 1. ふるさとを愛する教育の推進	49. 生涯学習講座「三朝大学」開催事業	継続	町民の生涯学習機会の提供 受講者の年間満足度 →80%以上	【受講者実績】 ・事業申込者数 44人(R6実績 40名) ・平均受講者数 29人(R6実績 24名) ・平均出席率 66%(R5実績 61%) 【アンケート結果】 ・全8回の平均満足 85% ※各回アンケートで「今回の講座テーマに興味を持てたか？」という問いに対し「興味を持った」と回答した割合。	【成果】 ・全体的な講座テーマについて、受講後に「興味を持てた」と回答する割合が85%となり、講座の目的を達成することができた。 ・講義内容に関する参加者の評価が高かった。 【課題】 ・新たな講師やテーマ等、受講者が興味を持たれるような講座内容を提案していきたい（講師の知名度ではなく、テーマの面白さや珍しさ等）。 ・高齢者だけでなく、若年層も気軽に参加できるように講座内容や広報を検討したい。	A	A	A	◎参加者がもっと増えれば良いと思う。 ★老人クラブの学習とバッティングすることが多いのではないかと。	49. 生涯学習講座「三朝大学」開催事業 →毎年度受講者を中心に講座テーマを練っており、継続するもの、及び関心の高いものといったテーマを取り上げており、魅力度を保つよう注力している。
	50. 気軽に利用しやすい図書館づくり	継続	入館者 →25,000人 登録者 →8,000人 貸出冊数 →個人70,000冊、団体15,000冊、(移動12,000冊)	【R8.2月末現在】 入館者数 21,100人 登録者数 7,868人 (新規登録者数 114名) 実利用者 1,326人 貸出冊数 64,733冊 ※団体+個人 ・個人 52,070冊 (館内 47,729冊、移動 4,341冊) ・団体 12,663冊 (館内 6,840冊、移動 5,823冊)	【成果】 ・夏休み期間中の8月と、県立図書館との共催で全県下の図書館で取り組んだ「図書館へ行こうキャンペーン」や古本市を実施した11月の来館者が多かった。 ・中学校国際交流展示や小学校版画展を実施し、普段図書館を利用しない方の来館につながることができた。 ・蓋つき飲み物可や受験勉強のための会議室開放など、図書館を利用しやすい環境づくりに努めた。 【課題】 ・入館者数、貸出冊数ともに前年度対比で減少した。前年度実施していた小学校への移動図書館臨時運行が新校舎開校により終了したことが大きい。 ・図書館に興味を持ってもらう（来館してもらう）ための事業を定期開催することが必要。	B			◎気軽に利用しやすい図書館になるような環境づくりに努力されているのが良く分かる。 ★以前、愛知だったと思うが図書館で「婚活イベント」を行っていた。図書館という場所は、本を借りるところと思っていたので、衝撃であった。今後、図書館の新しいあり方などを検討していただきたい。 ★来館者を増やすために特別展等の開催など色々企画されている。楽しく居心地のよい図書館になっている。	
	51. より豊かで質の高い蔵書体系の構築	継続	蔵書 →110,000冊	【R8.2月末現在】 R7年度末蔵書 108,537冊 ・一般図書 62,879冊 ・児童図書 27,604冊 ・文庫本 4,697冊 ・郷土資料 6,812冊 ・点字資料 52冊 ・漫画 427冊 ・外国語資料 290冊 ・雑誌 4,244冊 ・視聴覚資料(AV) 1,532冊	【成果】 ・開架書棚、閉架書庫の整理と除籍を進め、蔵書の鮮度を保つよう努めた。 ・絵本で貸出回数が多いものは、本が傷むのが早いので、適時買い替え行って手に取ってもらいやすくなった。 【課題】 ・書庫スペースの上限が見えてきた状況であり、蔵書資料の新鮮さを維持することからも、除籍を継続的に進める必要がある。	A				
	52. ニーズに応えるきめ細かなサービスの提供	継続	リクエストサービス →5,000件 相互貸出サービス →3,500件 相談業務(リファレンス) →1,500件 障がい者サービス →500件	【R8.2月末現在】 ・予約処理 3,170件 ・相互貸借処理 貸出 264冊、借受 1,965冊 ・相談業務処理 1,006件 ・障がい者サービス(デザイナー図書貸出) 250件 ・多文化サービス(外国語資料のコーナーを継続設置、ディズニー作品や児童書等も配架し、より親しまれやすいサービスにつなげる)	【成果】 ・郷土の歴史や戦時中のことに関する調べ物の相談があり、関係資料の提示や取り寄せなど丁寧に対応することができた。 ・相互貸借の対応も迅速に対応できた。 ・障がい者サービス(デザイナー図書の取寄せ、貸出など)の利用者からも積極的に読みたい本のリクエストがあり、要望に応えることができています。 【課題】 ・レファレンス対応の知識や関係資料の探し方などの技術をもう少し上げたい。	B				

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

（5）生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(4) ふるさと愛の醸成 II、ふるさにと触れる機会の充実	53. 情報発信の強化	継続	ホームページ更新 →1月5回	月間予定、展示紹介などの内容を定期的に更新し、ホームページ閲覧件数の増加に努める。 ホームページ更新 70回 子育て応援インスタグラムへ近況と活動のお知らせやイベント紹介を掲載 19回 (イベントの広報) ・館内チラシ ・町報 ・防災無線 ・子育て支援インスタグラム →上記が基本セット ・日本海新聞記事 ・NCNコマercial ・小学校マチコミメール	【成果】 ・館内展示や図書館事業（イベント）を実施する際は、チラシ、町報、防災無線、ホームページを基本セットに情報発信を行った。効果があったのは館内チラシと防災無線。新聞記事掲載も、県内各市町からの来館者が多くなり効果が大きい。今後も継続したい。 ・ホームページには図書館行事や季節の展示について写真付きで広報した。 ・町民課が開設している子育てに関するSNS（インスタグラム）に子ども向けのイベントの広報や実施報告を掲載した。  【課題】 ・図書館利用につながる、よりわかりやすい案内・情報の提供を今後も継続して心がけたい。 ・担当課と連携し日本遺産関係の展示を2回実施した。今後も関連資料の充実と情報発信の強化に努めたい。	A	A	A		
	54. 郷土資料の収集・適正管理保存・提供	継続	新規収集・適正保存 →100冊  展示による周知・継承 →1年1回	郷土資料 85冊を受入（購入5冊、寄贈80冊） 三徳山・三朝温泉コーナー及び郷土資料コーナーの充実。 県内発行機関誌の整理及び雑誌コーナーで公開。 国内外の姉妹都市関係資料の公開。	【成果】 ・他課の町職員から郷土資料の提供協力が最近増えてきた。継続して呼びかけることとしたい。 ・三徳山・三朝温泉関係のチラシやパンフレット、ポスターの配置を工夫し、PRに努めた。  【課題】 ・郷土資料の発刊の情報がなかなか入りにくい状況があるが、県立図書館や書店とコミュニケーションをとり、収集に努めたい。 ・観光パンフレットやイベントチラシなどの収集と保存に努める。	A				
	55. 地域住民の活動発表、コミュニティの推進	継続	特集・共催展示 →12回  図書館行事 →15回  ミニ講座 →2回  図書館ボランティア推進 →8人	展示 15回（町民・関係機関・団体連携） 世界自閉症啓発デーパネル展示/日本遺産PR展示/バラン切り絵作品展/男女共同参画啓発パネル展示/国際交流員メリサ活動記録展示/ウクライナとロシアの子どもの絵画展/睡眠とれていきますか？心の健康パネル展示/世界アルツハイマーデー啓発展示/北方領土問題啓発パネル展示/三朝中学校国際交流/俳句クラブ「雛句会」作品展/食育に関する取り組み展示/図書館所蔵品お宝展示/三朝小学校児童版画展/心の健康づくり展示 主催行事 14回 こども読書週間スタンブラリー/ミニ古本市2回/開館35周年記念事業はたこうしろうさんワークショップ&講演会/メッセージアート制作展示/さいころ図書館くじ/親子工作教室/日本遺産フォーラム・ワークショップ（缶バッジ）/あみぐるみ教室/図書館へ行こう！キャンペーン2025/ブラインドブックマーケット/古本市/夜の図書館/子どもフェスティバル・図書館司書体験/本の福袋 連携行事 5回 スマホ講習会（計4回）/みささ語り部の会イベント 親子で楽しむおはなし会 読み聞かせボランティア 7名 鳥看短学生ボランティア 延べ8人	【成果】 ・町民や団体、行政機関との連携・協力により、年間をおした展示を開催することができた。 ・ウクライナとロシアの子どもの絵画展では、関係団体の協力を得てあらためて平和について考える機会となった。 ・中学校国際交流展示や小学校児童版画展を実施し、小中学生の学習成果を発表の場とした。 ・親子で楽しむおはなし会は、読み聞かせボランティアに協力いただいて実施しており、今年度ボランティアが1名増となった。 ・おはなし会について鳥看短大の学生ボランティアが定着しつつあり、今後も継続して協力をお願いしたい。  【課題】 ・毎年行う展示は町民の関心を引くような展示内容を心がける。 ・ボランティアの育成、掘り起こしに努める。	A				

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

（5）生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(5)豊かに関わる力の育成 III.視野の広い人材育成の推進	56. 未来を拓けみささっ子創造事業	継続	将来の参考になったと答えた生徒の割合→70%以上	国内外で広く活躍されている方を講師に招き、中学生を対象に、夢の実現に向けて努力を惜しまず、主体的に生きることの大切さを伝えることを目的とした講演会を開催した。 ・元ウォルト・ディズニー・カンパニーシニアプロデューサー 大畠崇央氏 開催日：令和7年7月4日(金) 演題：「夢をかなえる3つの魔法～未来のためにできること～」 参加者：小学5年生～中学3年生228人 アンケート結果： 「将来の参考になった」合計99.0%	【成果】 ・「将来の参考になった」と回答した生徒が約100%となり、事業の目的は達成できたと考える。 ・今年度も小学5年生以上を参加させたが、しっかり集中して講師の話を聴く子どもたちの様子が見られ、夢の実現に向けた意欲の醸成が図れたと思われる。  【課題】 ・著名な講師は事前交渉と調整が必要となり、条件面でも考慮が必要となるため、次年度予算編成前に次年度の講師案を固める業務フローを徹底したい。	A	A	A	◎中学生だけでなく、小学生も参加しても講演会はとてもよかったと思う。今後も継続していただきたい。  ★人としての生き方・歩み方・考え方を学ぶ良い機会だと思う。継続していただきたい。	

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（70%～80%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（50%～70%）
ランクD	不十分（30%～50%）

（6）文化、伝統、地域資源（文化財）の継承と芸術の振興

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(2) 豊かな心の醸成 II. 情操教育の推進	57. 青少年劇場開催事業	継続	開催内容に興味を持った児童生徒の割合 →70%	児童生徒に優れた芸術を鑑賞する機会を提供し、豊かな情操を培い、子どもたちの健全育成を図る。 ・内容：妖怪影絵劇「ゲゲゲの鬼太郎」 開催日：令和7年6月20日(金) 演者：劇団影法師 参加者：小学校4～6年生139人 アンケート結果： 「興味を持った」合計96.4%	【成果】 ・アンケートについて良好な結果となり、多くの児童生徒に芸術への興味関心を持たせることができた。  【課題】 ・来年度も予算の調整が可能であれば、より多くの児童生徒を対象とした開催ができるように向きたい。	A			◎SNSやバーチャルではなく本物を見る機会は今後も継続してほしい。  ★素晴らしい芸術鑑賞は、青少年の育成に欠かせない事業だと思う。せっかくなので町民にも鑑賞していただければ良いと思う。今後に期待したい。  ★本資料は教育行政を評価するものであるから当然小中学校へのアプローチになる。保育園児も三朝町の子も達だが、本事業のように生の芸術を鑑賞するような機会がない。教育委員会と町民課。所管課が違うと言えば仕方ないが・・・。	57. 青少年劇場開催事業 →芸術鑑賞は貴重な体験と思われるため、委員の意見を保育部局へ提供したい。
	58. 三朝町将棋フェスティバル開催事業	継続	イベント参加者数 →150人 将棋啓発イベントの企画	従来、町内で将棋大会を開催してきたことで、県内外における町の将棋大会に対する認知度は高い。この実績を踏まえ、日本の重要な文化である将棋に対する関心を高め、親しみを深める機会を提供することで伝統文化の普及、振興に寄与する。 ・開催概要 令和7年11月22日(土) 町総合文化ホール ・事業委託 日本将棋連盟鳥取県キッズ支部 ・参加者数 来場者70人(R6実績143人) ゲスト・スタッフ16人(R6実績18人) 計86人(R5実績161人) ・事業内容 ①クイズ大会&トークショー ②指導対局会(ぐるぐる将棋) ③プロ棋士、女流棋士との交流会 ④将棋ひろば、将棋教室 ・アンケート結果 「楽しめた」…100% 「次回も参加したい」…100%	【成果】 昨年度から来場者が73名減少し、減少率は-51%。これは将棋大会の中止によるもので、大会自当での来場者が減ったことが主要因と考えられる。 運営には適切な来場者数となり、事業運営もスムーズであった。前年度の課題を踏まえ事業規模を縮小し、運営体制の改善につながったと自己評価する。 ・今年度事業内容が、参加者の満足度が非常に高かったのは大きな成果。  【課題】 ・今年度も来場者から高評価を得たが、企画満足度と来場者数の目標バランスが今後の課題となった。 ・町民の来場が促進できていないため、将棋の普及事業を継続して実施し、参加意欲を高める必要がある。来年度はプロ棋士による学校訪問や学童での定期企画を検討。 ・ゲスト棋士のSNS活用で事業の周知が広がった。今後はPRも依頼事項に含めていきたい。	B	B	B	◎意図的に仕掛けないと、子ども達に家庭や学校で将棋に触れる機会は少ないと思う。現在、中学校に美術部と連携し、小学生が手軽に将棋の基礎に触れる「動物しょうぎ」の作成を依頼しているの、休憩時間等にごんごん使ってもらって仕掛けづくりをしていただきたい。  ★将棋は、日本独自の文化であり、今後も継続していただきたいと思うが、大変困難なことではあるが、プロによる将棋大会を誘致したり、全国大会などの誘致に向けて検討することも良いと思う。今後に期待したい。	59. 三朝町将棋フェスティバル開催事業 →町内の子ども達を対象とした将棋に触れ合う機会創出を積極的に取り組む。

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（70%～80%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（50%～70%）
ランクD	不十分（30%～50%）

（6）文化、伝統、地域資源（文化財）の継承と芸術の振興

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R7目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R7) ★教育行政評価委員の意見(R7)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R7)
(4) ふるさと愛の醸成 1. ふるさとを愛する教育の推進	59. 文化振興事業	継続	三朝町文化サークルの支援 三朝町芸能文化祭の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術サークル 18団体</li> <li>三朝町芸能文化祭 令和7年11月16日（日）町総合文化ホール 出演団体数 12団体（延べ80人） 来場者数 延べ150人</li> <li>町民作品展 令和7年11月12日（水）～11月17日（月） 出展者数 4団体7個人 作品数 約50点</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も芸能文化祭、町民作品展を実施。芸能文化祭には、町内高校生で構成するバンドが初出演され、幅広い年代の参画があった。</li> <li>町民作品展についても約50点と多くの作品が出品された。両行事ともに町内で文化・芸能活動に取り組む方の成果発表の場となつるとともに、観覧者との交流の場となっており、活動を継続されるためのモチベーション維持の一助となっている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町民の芸能文化の発表の場として、ジャンルや年齢問わず本事業に参加いただけるよう、一層周知を行う必要がある。</li> </ul>	B			<p>◎町民作品展として、出展者4団体7個人というのは少なすぎると感じる。今後も継続するのであれば、こちらから出展依頼をして出展者を増やすことも必要だと感じる。</p> <p>◎毎年同じような団体の出演のなかで、高校生バンドの参加は画期的だと思う。今後もそ野を広げていく工夫をしながら継続してほしい。</p> <p>★日頃の活動をお披露目できる唯一の芸能大会。今後、若い方がどんどん出場できることに期待をしたい、</p>	60. 文化振興事業 →様々な広報手段を活用し、出演、出展者及び観覧者の増加を目指す。
	60. 三徳山遺跡発掘調査等事業	継続	神倉「上宮」地点の調査実施と成果の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>三徳山のさらなる価値付けの推進のため、継続して神倉後口山遺跡の発掘調査を実施した。</li> <li>①調査箇所 上宮地点における発掘及び記録調査 ・標高700m付近に位置する遺跡。 ・土留石列群、中央祭祀部、参道からなる遺跡群。 ・地点名は仮称</li> <li>②調査内容 ・各遺構の概要調査（発掘調査、範囲調査、記録：平面図及び断面図作成） ・写真測量図作成（委託業務）</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土留石列群や中央祭祀部で人工的な構造（裏込縁、排水路、階段遺構など）を確認。特に土留石列群は全国的にも珍しく貴重と認識される。</li> <li>中央祭祀部では加持・祈禱が行われていたと考えられる遺構を確認した。</li> <li>遺構範囲（想定）を明らかにした。</li> <li>文化庁と国指定文化財に向けて協議を行った。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査は令和8年度で完了予定だが、今後は調査結果を総合的にまとめ、遺跡の学術的・客観的価値付けを行うことが今後の重要な課題となる。</li> <li>調査総括や報告書発行、文化財指定に向けた調査委員会の設立、文化庁や地元との協議も引き続き必要となる。</li> </ul>	A			<p>★「湯」の遺跡も含め、今後の発掘に期待が持てる。文化財指定に向けて頑張っていたきたいと同時に、周辺環境整備も考えていただきたい。</p> <p>★中学生の遺跡発掘体験を計画してはどうだろうか。</p>	60. 三徳山遺跡発掘調査等事業 →令和9年度に調査結果をまとめた調査報告書を発行予定。
	61. 文化遺産等調査研究事業	新規	調査成果報告会 一年1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>三徳山の世界遺産登録推進の取り組みを推進するため、日本遺産事業と連携した講演会「三徳学講座」を3月14日に実施した。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三徳学講座を通じて神倉後口山遺跡の調査成果を広く、三徳山の価値向上の根拠を示すことで世界遺産登録の機運を高めた。</li> <li>初心者向け講座を計画することにより、多くの町民が遺跡の存在や意義に触れる機会を創出した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発掘調査成果のさらなる広報と、地元の子どもたちが歴史遺産に触れる機会を増やす取組の検討が必要。</li> </ul>	A	A	A	<p>◎調査報告会には多くの方の参加があり、興味関心の深まりを感じる。子ども達にもこの機会をたどらえて学習する機会が持てると思う。</p> <p>★非常に関心が高い事業。内容は小学生、中学生向きではないので、課外学習の場として子ども達にも理解できる内容を聞かせてあげたいと思う。</p>	61. 文化遺産等調査研究事業 →子ども達にも関心を持ってもらえるような学習・体験機会を検討する。
	62. 日本遺産活用推進協議会補助金（保存事業）	継続	日本遺産三徳山三朝温泉を守る会の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年に策定した「日本遺産を通じた地域活性化計画」に基づいて、普及啓発活動に向けた日本遺産三徳山三朝温泉を守る会が実施する事業に補助金を交付し、日本遺産周辺の環境整備や三徳山行者道の補修（山護運動）、三徳学講座等を実施し、普及啓発を図った。</li> <li>また、地元小中学生を対象に日本遺産アンケートを実施し、その認知度や誇りに思うかなどの醸成度を検証した。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保全活動として、三徳山での清掃活動、山護運動だけでなく今年度は新たに三朝温泉観光協会等と合同で温泉街の清掃活動を行った。</li> <li>普及啓発事業として、守る会公式LINEアカウントを導入した。守る会主催事業や日本遺産関連事業等の情報発信を行っている。LINE友達数は約750名（R8.2）と守る会会員数の約3倍に伸びており、三朝の日本遺産への関心度向上に寄与した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本遺産アンケートの結果では、町内小中学生の約2割が一度も三朝温泉に入浴したことがないという結果がある。小中学生など地元の子どもたちが三朝温泉や三徳山に触れ、体験する機会の創出が必要。</li> </ul>	A			<p>◎小中学生とも三徳山に登る機会があり、身近な存在として認識できているが、温泉となつてなかなか入る機会が無いと思う。中学生の三徳山登山は温泉宿泊とセットで実施していたが、ここ2年宿泊無しで実施している。コロナ期が明け宿泊代が高くなっていることが一つの原因だと聞いている。子ども達を三朝温泉を全国にPRしてくれる、将来のインフルエンサーとしてとらえて、町が宿泊代の一部を補助するような仕掛けができないだろうか。</p> <p>★日本遺産の認知は広くなりつつある。全国でも色々なイベントが催されている。観光客誘致に向けたイベントも期待をしたい。</p> <p>★小学生の三朝町紹介マップ、中学生の三徳山登山、宿泊体験とても良いことである。保育園も温泉散策や体験活動などを通して三朝町、三徳山理解を行っている。三徳山検定（保育園バージョン）も作成されている。小さな時から体験を通して、郷土三朝町を愛する心を育むことが将来の日本遺産三徳山三朝温泉を守る大きな力になると思う。</p>	61. 文化遺産等調査研究事業 →子ども達にも関心を持ってもらえるような学習・体験機会を検討する。

## 9 教育委員の活動状況報告

### (1) 教育長・教育委員の在任状況

職名	氏名	就任(再任)年月日	任期(退任)年月日	保護者
教育長	塩谷 俊樹	令和8年1月1日	令和10年12月31日	
教育長職務代理者	松浦 靖明	令和5年10月1日	令和9年9月30日	
委員	加藤るみこ	令和6年10月1日	令和10年9月30日	
委員	村岡 麻梨	令和7年10月1日	令和11年9月30日	○
委員(新任)	知久馬孝亮	令和8年3月23日	令和8年9月30日	
退任(任期満了)	西田 寛司	令和5年1月1日	令和7年12月31日	

### (2) 委員の異動

村岡麻梨委員の任期満了に伴い、令和7年9月に開催された令和7年第4回三朝町議会定例会において、同氏を再任する議案を提案。全会一致で同意され、同年10月1日付の再任となりました。

また、西田寛司教育長の任期満了に伴い、令和7年12月に開催された令和7年第6回三朝町議会定例会において提案された、塩谷俊樹委員を新たな教育長に任命する議案についても、全会一致で同意されました。

なお、塩谷俊樹委員が教育長に就任したことに伴い、令和8年3月に開催された令和8年第2回三朝町議会定例会において、知久馬孝亮氏を新たな教育委員とする議案を提案。全会一致で同意され、同年3月23日からの着任となりました。

### (3) 教育委員会会議の開催状況

#### ① 開催状況

定例会 12回(月に1回開催)

臨時会 1回(令和8年3月に開催)

毎月1回の定例会と1回の臨時会を開催しました。会議の内容としては、定例の教育行政にかかる議案や報告はもとより、教職員の資質に関する内容を含めた学校運営や児童生徒の教育環境、今後の小中連携についても協議を重ねながら、各教育委員が高い意識を持って、それぞれの専門的見地から議論を行いました。

今後も、「三朝町教育大綱」及び「みささっ子教育ビジョン」の基本理念に基づき、目指す子ども像の実現に向けた各種施策に沿って具体的事業を進めていくための議論を重ねるとともに、地域に根差した特色ある教育活動を展開していくため、教育委員一人ひとりが地域教育行政の重要な決定の責を担っていることを常に自覚し、職務を遂行していかねればなりません。

② 付議件数

区分	内容	件数
議案	規則等に関する事	12件
	議会の議決を経るべき議案に関する事	7件
	人事に関する事	15件
	委員の委嘱等に関する事	8件
	その他	3件
協議	児童生徒に関する事 ほか	25件

③ 会議の詳細

会議名（年月日）	議題等	内 容
第4回定例会 （令和7年4月21日）	第22号	三朝町部活動地域移行検討委員会委員の委嘱について
	第23号	令和7年度小中学校主任及び主事の任命について
	協議	通級指導教室の指導希望について
	協議	三朝町社会福祉協議会評議員の推薦について
	協議	三朝町防災会議委員の推薦について
	協議	令和6年度分三朝町教育委員会の事務に関する評価について
	報告	5件
第5回定例会 （令和7年5月28日）	第24号	令和7年度教育関係費補正予算（令和7年6月）について
	第25号	三朝町教育委員会教育長の職務代理者に関する規則の設定について
	第26号	三朝町立学校職員の自家用車の公務使用に関する取扱要綱の一部改正について
	第27号	三朝町教育行政評価委員の委嘱について
	第28号	三朝町文化財保護調査委員会委員の委嘱について
	第29号	町立学校教職員の処分について
	協議 報告	三朝町生涯学習推進プランの策定について 9件
第6回定例会 （令和7年6月23日）	第30号	専決処分の承認を求めることについて（令和7年度小中学校校医等の委嘱について）
	第31号	三朝町就学支援連絡会運営要項の設定について
	協議	通級指導教室の指導希望について
	協議	令和7年度三朝町教育事業計画書について
	協議 報告	旧東小学校の石碑等の取扱いについて 7件
第7回定例会 （令和7年7月24日）	第32号	専決処分の承認を求めることについて（三朝町教育委員会事務局職員の任命等にかかる町長部局等からの協議について）
	協議	なし
	報告	6件
第8回定例会 （令和7年8月27日）	第33号	令和7年度教育関係費補正予算（令和7年9月）について
	第34号	令和6年度教育関係費歳入歳出決算の認定について
	協議	なし
	報告	6件

会議名（年月日）	議題等	内 容
第9回定例会 （令和7年9月26日）	第35号	三朝町教育委員会事務局職員を臨時に三朝町選挙管理委員会書記へ任命することについて
	協議 報告	三朝町民生委員推薦会委員の推薦について 11件
第10回定例会 （令和7年10月30日）	第36号	専決処分の承認を求めることについて（三朝町教育委員会事務局職員任命等にかかる町長部局等からの協議について）
	協議 報告	通級指導教室の指導希望について 7件
第11回定例会 （令和7年11月27日）	第37号	令和7年度教育関係費補正予算（令和7年12月）について
	第38号	公共施設予約システムの導入に伴う関係条例の整理に関する条例の設定について
	第39号	損害賠償に係る和解及び損害賠償の額を定めることについて
	協議 報告	なし 7件
第12回定例会 （令和7年12月23日）	第40号	令和7年度教育関係費補正予算（令和8年1月）について
	第41号	中学校外国語指導助手の再任用について
	第42号	小学校外国語指導助手の再任用について
	第43号	三朝町教育委員会委員の辞職の同意について
	協議	三朝町教育委員会教育長職務代理者の指名について
	協議	三朝町防災会議委員の委嘱について
	協議	三朝町民生委員推薦会委員の推薦について
	協議	三朝町都市計画審議会委員の推薦について
	協議	三朝町男女共同参画審議会委員の推薦について
	協議	三朝町社会福祉協議会評議員の推薦について
協議 報告	「三朝町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（仮）」の策定方針について 7件	
第1回定例会 （令和8年1月22日）	第1号	三朝町教育委員会事務局職員を臨時に三朝町選挙管理委員会書記へ任命することについて
	第2号	三朝町教育委員会表彰について
	協議	「三朝町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」の策定について
	報告	3件
第2回定例会 （令和8年2月20日）	第3号	専決処分の承認を求めることについて（三朝町教育委員会事務局職員任命等にかかる町長部局等からの協議について）
	第4号	令和7年度教育関係費補正予算（令和8年3月）について
	第5号	令和8年度教育関係費当初予算について
	第6号	三朝町教育委員会教育長交際費の支出基準及び公表に関する要綱の設定について
	第7号	三朝町通級指導教室実施要綱の設定について
	第8号	三朝町学校職員の服務に関する規程の一部改正について
	第9号	三朝町立社会体育施設の管理及び運営に関する規則の一部改正について
	協議	令和8年度三朝町学校給食費単価の改定について
	報告	9件

会議名（年月日）	議題等	内 容
第1回臨時会 (令和8年3月12日)	第10号	令和7年度末三朝町学校職員人事異動内申について
	協議	三朝町教育委員会教育長職務代理者の指名について
	協議	三朝町民生委員推薦会委員の推薦について
	協議	三朝町都市計画審議会委員の推薦について
	協議	三朝町男女共同参画審議会委員の推薦について
	協議	三朝町社会福祉協議会評議員の推薦について
第3回定例会 (令和7年3月27日)	報告	2件
	第11号	三朝町教育委員会組織規則等の一部改正について
	第12号	三朝町教育委員会事務局事務の専決及び代決に関する規程等の一部改正について
	第13号	三朝町立小・中学校管理規則の一部改正について
	第14号	三朝町学校運営協議会規則の一部改正について
	第15号	三朝町社会教育委員の委嘱について
	第16号	三朝町地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の委嘱について
	第17号	令和8年度三朝町学校運営協議会委員の任命について
	第18号	三朝町人権教育推進員の任命について
	第19号	三朝町心の教室相談員の任命について
	第20号	令和8年度小中学校校医等の委嘱について
	第21号	令和8年度小中学校職員等の配置について
	第22号	三朝町教育委員会事務局職員の人事（出向）について
	第23号	三朝町教育委員会事務局職員の任命について
	協議	町立学校におけるスクール・ソーシャル・ワーカー（SSW）の配置について
報告	7件	

#### (4) 小中学校及び園への計画訪問

本町の教育現場の現状と運営状況について把握するため、教育委員と事務局職員及び中部教育局指導主事が計画訪問を行いました。

学校計画訪問は年2回、半日ずつ小学校（前期：6月9日午前、後期：10月30日午前）と中学校（前期：6月23日午前、後期：10月21日午前）を訪問しました。その中で、懇談においては全国学力・学習状況調査等の結果をもとに学習の取り組みについて意見交換を行いながら、今後の進め方についての理解を深める場となりました。

また、町内の園についても、みさきこども園（11月11日午前）及び賀茂保育園（11月13日午前）へ各1回訪問を行いました。

##### 【教育委員の訪問内容】

- ① 各学校長（園長）への学校（園）運営等（具体的な取り組み）に関する聞き取り
- ② 保育、授業等視察
- ③ 職員との意見交換と指導、助言等

#### (5) その他の主な活動

本町教育活動の根本である教育大綱の中間見直し検討と、長年に及ぶ検討事項であった生涯学習推進プランについては、当該プランの策定を完了し、議会へ報告のうえホームページにて公表を行いました。

その他、各種研修会へ参加し、他市町村の教育関係機関と幅広い意見交換を行うことで、今後の本町における円滑な教育行政の推進に資する機会としました。

年 月 日	内 容	会 場
令和7年4月16日	鳥取県市町村教育委員会研究協議会・第1回理事会	白兔会館
令和7年5月28日	東伯地区教育委員会連絡協議会定期総会・倉吉市合同研修会	鳥取県立美術館
令和7年6月26日	市町村教育委員会研究協議会	役場（オンライン参加）
令和7年7月10日	鳥取県市町村教育委員会研究協議会理事会・定期総会・研究大会	セントパレス倉吉
令和7年7月17日	中国地区市町村教育委員会連合会研修大会	ホテル グラン・ココエ倉敷
令和8年1月22日	令和7年度第1回総合教育会議	役場
令和8年2月17日	令和7年度教育懇談会	役場